

資料

清水安三初期文選（中）

——1922年～1924年——

金丸裕一

はしがき

本稿は、「清水安三初期文選（上）—1917年～1921年—」（『立命館経済学』第73巻第3号，2024年11月20日）の続編として，1922年から1924年のあいだに発表された清水安三による論著を翻刻した史料集である。

彼は1930年代半ば以降に数多くの「自叙伝」的な作品を出版し，それらのなかでは1917年の奉天赴任以来の様々なできごとが絶妙な語り口で披露されているため，読者はついつい引き込まれる。そのためだろうか，後の研究者たちはこれらに依拠した歴史を構築してしまった感がある。特に，1920年代前半以来の清水は，北京において「崇貞女学校」という現地人を対象とした教育活動に取り組み，これが敗戦に至るまで継続・発展していたため，戦時下の「良心」として広く江湖に知られる存在となっていた。引揚後，町田において桜美林学園を創立し，こんにちの総合大学の礎を築いた人物であることは，多くを紹介するまでもなからう。

そうした清水ではあるが，実は初期の活動をめぐる史料について，いまなお発掘と紹介を要する段階に位置するものと思量される。なぜならば，単にキリスト教史のみならず日中関係史における彼の役割を分析しようと考えた際であっても，公刊された各種「自叙伝」的作品を除いて，公共図書館や大学図書館での入手はなかなか難しい。よって，結果として本人が後に「回想」した内容を，「史実」と見做す風潮が定着してしまったのだろう。こうした状況を歴史学の原理原則に立ち返らせるべく，本稿は従前の調査を経て入手した史料を翻刻して，同時代における本人による記録を広く学界に紹介・提供することを，唯一の目的としている。

歴史学や歴史神学の場合，フィクションの上に議論は成立しない。以下に紹介する諸史料には相互に矛盾する如き叙述があるやもしれぬが，それを前提として清水安三像が考察されることにより，激動の時代に渦巻く人間関係（清水の場合には神との関係も含めて）が交差した「現場」における個人像が，静的構造的ではなく動的形成史的に浮かび上がってくるだろう。

なお，ベストセラー『朝陽門外』（朝日新聞社，1939年）の原型になったと思われる自叙伝的作品（①清水安三「足洗ふ人—自叙伝の一節」，『表現』第3巻第5号，1923年5月1日，67～77頁；②清水安三「足洗ふ人」，『表現』第3巻第6号，1923年6月1日，90～101頁；③清水安三「足洗ふ人（三）」，『表現』第3巻第7号，1923年7月1日，119～128頁；④清水安三「恐ろしき一夜（『足洗ふ人』の続）」，『表

現』第3巻第10号，1923年10月1日，123～129頁）については，清水研究にとって極めて重要な未見史料であると判断されるため，次号においてその全貌を紹介することにしたい。

凡 例

1. 「清水安三初期文選」(中)では，1922年から1924年に執筆された本人署名に係る史料を取録した。
2. 配列は，発表年月日に従う昇順とした。刊行年の横に附す年齢は，当該年の誕生日（6月1日）を基準とした満年齢を示す。
3. 著者名，タイトル，掲載書誌情報，刊行年月日，掲載ページ数を記した。
4. 原文で用いられる正字（旧字体）は，常用漢字に置換した。また，誤字・誤植や脱字等は訂正せず「ママ」のルビを附し，判読困難な箇所は記号□□を用いて示した。
5. 句読点を補った部分については，括弧 [] を用いて明示してある。
6. テキスト選定について，公共図書館での収集と閲覧が困難と判断した文献を優先して採用した。

本 文

〈1922年〉31歳

清水安三「支那いろいろ」(『表現』第2巻第3号，1922年3月1日) 135～140頁。

一 支那の娼婦

支那らしいまた支那だけにありそうな，興味ある話を五つ六つ書くとせう。支那の娼婦を買った男の話に依ると，支那娼婦が恋の形を踏んで，男に接するそう。晨に張君を送つて夕に李君を迎へる娼婦としてちよつと解せぬ話のやうでもある。がそれは恁ふいふことなのである。支那娼婦を買ふ男は先づ気に入った女を自分の敵妓として，打茶園といふのをやる。打茶園といふのは瓜の種を噛み乍ら，煙草を吸ひ，茶を飲みつゝ女と話をするのである。歌へるのは唱ふといふ訳である。そうしてその夜はそれぎり帰るのである。支那の風俗をわきまぬ日本の若者は，その初夜から，へたり込んで動かぬので，娼婦屋は困るそう。そうして二夜目から打茶園の終ると共に，泊り込むのであるそう。恁ふしたことは馬鹿々々しい，ちよつとしたことの様であるが，私達は少なからぬ興味を感じるのである。

支那の嫁なるものが，結婚その夜まで，夫の顔を見知らずまた知らぬが普通であつて，夫もまたそうであるのだ。結婚の大層七面倒臭い式がごたごたと済んで，若い男女新郎新婦が，寢屋に入つて，やつと互に見合して，この女を我妻とするべく観念したり，この男を夫と仰がねばならぬものと，承知せねばならぬが，普通のことなのである。恁うした支那に於て，娼婦が一現の男には貞操を売らないといふは，面白ろくはあるまいか。女郎と買主との恋の経過，形式を採つて，純な打茶園を一度，少くも一度以上はやつてからでない，身を許さぬにも拘らず，夫婦が初見，

初参を以て結婚式から、寢屋に直行するところ滑稽であり、軽率ではあるまいか。

で、支那以外の国に於ける娼婦は、支那の正式結婚と同一筆法で一現の男を迎へる。そのかほりに正式の結婚式が支那の娼婦と同一筆法で恋から同衾に進むのである。私達はこのコントラスト丈を持出しても、優に支那の道德を論じられるけれども、今日は理屈は抜きにするともりだから止めた。

二 支那の俵夫

支那の俵夫は銅一枚に依て、走るか走らぬかの境界線を決定する。その意味は恚うである。客待の俵夫の成る可く多く塊つてるところへ行つて、行くべきところを喋つて、幾錢！と嗚鳴るならば、俵夫達が先を競ふて、俵夫として要求し得る賃金の最も多額を提唱するのである。乗手の方はその多価な要求を相手にせずして沈黙を守るならば、又しても俵夫は大声を張り上げて、前よりも低廉なる賃銀を改めて提唱する、それでも首を振つてゐるならば、腹の減り具合と、其日の不景気に比例して、より安価なる賃銀を以て、走らうといふ希望者が出て来る。そうして結極は銅一枚の差で誰かが走ることに決定する。その価格はその客の到着した地点で、団子を食すると、幾らも残らない賃銀であるらしい。して見ると走つたために胃の腑が軽くなつた。それがためにまた何か入れねばならぬことになる。丁度自動車のギヤソリンと同じやうに、走つたために食し、食したために走るといふやうな生活をしてゐる。で、江戸子の宵越の金を費はぬといふ男一疋の生活よりも、もつと縮小したる宵越で、走らぬ前のものは食はぬといふ生活に生きてゐる。

これも支那でなければ、見られぬ生活かも知れぬが、極端でこそなければ、凡の労働者の生活は之に近いのであるまいか。物ごとは極端に引延することに依つて、頭のにぶい者にも解るやうだ。

三 支那人の衛生

豚飼ふた経験のある者は、豚には豚に相応したる衛生があることを認める。豚は糞でも嘔む癖して、あれで一種の衛生を心得てる。といふのは別に大したことなく、豚は自分の食物の在り場で、大小便をやらぬことをいふのである。が、これ丈けにしても豚としては、大出来であるまいか。「雪隠で饅頭」といふ俚諺を持合せて人間の宜しく以て他山の石とすべきでないか。

豚が最も陋い動物であり乍ら、其实恚うした隠れたる衛生家であると同様に、支那人は随分反潔癖家であると、認められてゐる。然るに何でもかんでも支那人最負であり得たい私達から見ると、支那人もまた一種の衛生家だと思ふ。支那人が衛生観念を持つこと到底他国人の及ぶところに非ず、またその衛生が合理的であるに驚かされること屢々だ。

支那人が冬は勿論、真夏の頃ですら、熱い茶、舌を焼かんばかりの汁を吸ふ。生まものは決して口にしない。した時は韭菜を食ふ。蠅の多い支那で、若しも日本人のやうな大胆なる食物を採つたら、直ぐやられて仕舞ふ。支那で、この塵の多い大陸で、家の隅から隅まで、嘗めたやうに掃除を行届かせることは、到底出来るものではない。で、彼達は一切の不潔を成行に委せて、只自らの口を嚴重に取締るのである。大掃除をやつて家を掃除して置かねば、衛生状況に危険を感じざるやうな、衛生法は、支那ではやり切れたものでない。で、蠅等は繁殖を恣にさせて置く。だが蠅の死骸が一つや二つ沈没してゐたつて、大丈夫といふ奴を食する。その上に韭菜を食つて腹の中を消毒する。

恸うした衛生ならば、支那には幾らもある。靴を必ず穿ち、靴下を年中離さないのも、あらゆる意味に於てよいことである。が、然し之等は支那人が科学的知識を働かして、厳守してゐるのではない。只之を習慣とし、規矩として守つてゐるに過ぎぬ。思ふに支那の道徳、風俗は、凡て型に箝つてゐて、春秋のころそうであらう。孔子の如きも、あれは臣であり乍ら君のやるまつりをする等いつて、腹立てたのであるが、何んでもかんでも支那では規矩（きまり）の二字で押しに行く。けれどもそれは支那丈けに限つた訳ではなく、多くの文化的行為は、一つのきまりとして、大多数の人々に実行を強ひる。牛痘の如きですら、訳わからずに、二歳になれば役場へ行つてすることに、きまりとなつてゐる日本の田舎者の生活を見出し得る。科学的知識に依つて創始せられたことが、一種迷信的に普及して行くものもあれば、迷信的に行はれてゐるものにも、合理的な科学的意義を見出し得るものである。支那に於ける衛生はその後者に属する。

四 太公望の支那

太公望の釣魚の話は、誰にも教訓するところ多く、わけて性急者の日本人には、忘れ難い故事である。が、支那では実際姜太公が多くして、殆んど全部が、太公望に師事することに依つて成功して行く。漢の高祖の如きは、あちらに行つては戦敗、こちらでもぎやふんと言はされ乍らも、遂には皇帝に成つたのである。古いことは止めて、孫文の如きでも随分前から、革命を志したのであるが、彼が藻掻いたが故に共和になつたといふよりか、愚図々々やつてゐる裡に何時しか共和が到来した、無論彼の功は大であつたが、彼が藻掻いたために時代が来たといふよりも、藻掻いてゐる裡に時代が来たのであつた。今だつて北伐等に成功仕切らなくつても、あゝやつてゐる裡に自治聯盟が来るに違ない。寿命を大切に生きて延びてゐればよい訳である。

梁士詒にしても、帝政論者として失脚してゐる筈の男が、時の来るのを待つてゐれば、また運が向いて来る。張勳の如き逃げた男が、首が胴体にくつついてゐるのみか、巡閱使を運動する時に際会してゐる。段芝貴〔・〕丁士源の如きも一年間日本公使館で溜息を吐いてゐただらうが、もう社会へ出る日を迎へ得た。支那では商売でも、官吏でも待つことに依つてのみ成功を謀つてゐるやうだ。太公望の実話はよい意味に於ても、悪い意味に於ても、支那人氣質を語つてゐる。普通のもは餌と針、糸と竿の四道具を揃へて釣魚するのであるが餌も針もなく、只糸と竿丈けで魚をひっかけやうといふ心持は、支那人の生活をよく現してゐる。半分ばかり努力して置いて、後は時の来るを氣長に待つことは、支那人の成功の秘訣であると同時に支那人の失敗の秘訣ではあるまいか。

戦争ですら、徹底したる戦闘をやらない、ぼんぼん三つ四つ音がするともう終りだ。敗北者はそれから太公望をきめこむのである。

五 道徳の權威

支那人のモラルオソリテイは、内に輝く良心の光に非ずして夏冬出し放しの顔にある。支那人は面子の爲めに、行ひまた行はない。よく面子を立てゝ呉れといふ。彼等は顔の爲めに動くのである。対支外交には之が最もよく飲み込めてないと困るそうだ。

私達は支那学生を戒める時に、只一人自分の前に立たせて叱るのである。若しも多人数の前で之を戒めるならば、余葉がきゝすぎて女生徒等委縮して仕舞ふやうである。自白等させる時に他生徒の前では、決して自白させない。させやうとしても必ず無駄骨折に帰する。

或る宣教師が支那人の一信者を、人々に紹介して心中常に誇つてゐた。自分は在支已に三十年、

この信者は自分の子飼である。かゝる見事なる信者を作出したことに依つて、自分の在支三十年は無意義ではなかつたといひひ居つた、或時彼はヴェランダに腰掛けて讀書してゐた。遇々門を入つて来た一支那人があるの見て、見るとはなしその歩み来るのを眺めてゐた。然るにその支那人は彼の大切にしていゐる葡萄の一房を柵から引取つて、之を食し乍ら来つた。彼はかあつと氣を立て、その支那人を呼んだ。彼が仰向く支那人の顔を見た時に更にもう一度驚いた。それはその支那人が彼の誇る信者であつたからであつた。

「君はその葡萄を盗んだでせう」

漸く彼は心を取鎮めて、之を言ひ得た。

「いゝえ盗みません、之は他で買ひ求めたものです」

支那人は平然として答へた。宣教師は再び腹立つた。

「馬鹿をいふな、今現にこの二つの眼玉が見て居つた」彼が荒々しういつた時に支那人は一層落着いて語つた。

「でせうが、それは紳士にいふべき言葉ではありません。それは紳士の面子を壊します」

老宣教師はその時、頭を抱いて泣いた。腹立つ為めに泣いたのではなくして寧ろ、自分の三十年間に於ける仕事のみじめさを知つたからであつた。

支那人は顔を以て、道德の基礎としてゐることは、以上の通りであるが、之れは別に老宣教師の如く泣く程に驚いたことではあるまい。只良心のエキस्पレツションの差異であつて大したことではないと思ふ。或者は良心を腹にあるとし、或ものは胸にあると考へ、或る文明の人達は頭に入つてると称する。而して支那人は顔に見ゆるとしてゐる外にない。

六 電信柱にはな

「電信柱に花が咲く」といふあるべからざることに就いて、日本では謡はれる。が、支那では實際電信柱にはながつついてゐる。といふのは花ではなくて、鼻汁（はな）であるのだが、支那人は電信柱で鼻汁をかむ習慣がある。電信柱で鼻汁をかむといふのは、手鼻をぶいとかんで、歩き行く内に、電柱でくひくひと拭ふのである。であるから支那の電柱は上五尺何寸から三尺に至る高さに到るまで、縞が出来てゐる。それは三尺の児童から五尺何寸の人達までが、道路行く時に鼻汁をこびりつかせて行く跡である。で電信柱にはながつくのも道理である訳である。

これを見て支那人は下等だの、公共心がない等と憤慨するものがあればそれはちやんちやら可笑しい。日本の共同便所を見るに、その壁には大変な画と文章が書着けてある。必ずその画は陽物と陰物でなければ、男女の複雑な行動のスケッチである。然るに支那にはこれが殆んどない。落書は大抵、詩とか王八（わんぱ）の画以上に、一步も出ないやうである。日本の落書を思起す時に、電信柱の縞模様位は辛抱出来ぬ程のことではあるまい。また支那では古来文字が如何に崇敬せられて、猥に物を書くことを謹んで来たかが解る。

七 ロックフェラー病院

北京にロックフェラーの建てた病院がある。去年の秋にその開業式があつた。日本の同仁病院が少さくつ、ましやかにしよんぼり建てる隣に、ロックフェラー病院は、王宮の如くに聳えて居る。何んでも何百万弗を以て建てたのであるそうなる。大理石の廊下がある。屋根は瑠璃色の瓦で葺いてある。その瓦一枚が何円だといふ。實際北京紫禁城の妹位のところの建物である。これを見てさも羨しそうに感心したり、吹聴するのは日本から来た旅行者である。

支那国民性を研究して、建てたのであらう。あゝすれば支那人の心を引着け得る。そればかりか米国の威力を示し得る等といふ。然しもう少し余計に支那国民性を研究すると、実はあれは馬鹿々々しいことであるのだ。支那人があれを見て何と見る。紫禁城よりも小つさいではないか。大和殿一つよりも小つぼけだとも見るだらうではないか。万寿山と差不多といふかも知れぬ。現米国の力、清に及ばずと感ずるのも一観察である。

真実のやり方は、矢張飽迄も、支那国民性の利用等を超越して、支那の爲めになることをやる外ない。大なる規模で驚かせる必要等毫頭ない。寧ろ、その設備を充実に最善を尽したる上は、あの華美なる概観を寧ろ地味にして、其節約に依る経費で、他の所に今一つ病院を建設すべき筈であつた。米人位支那を知つてゐるやうで、知つてゐないものはないそうだ。

支那は実用品を藝術化して、何万銀の価ある皿、鉢を使用し、住宅を藝術化し、文字文章迄も藝術化して、不便なるものにしてしまつた。更に食事、言語、衣服、身体凡てを藝術化して来た。都市計画をすら藝術的に考へて人民の便不便を犠牲にした。然るに最近一切を实用主義に転向して、彫刻物のこてこてしたる椅子を廃して、ソファアに代へ、文章を白話（口語）とし、文字を絵画的から引離して実用物とせんとし〔、〕女の髪形の形の大なるを廃止して、断髪が流行し始め、城門城牆を取除いて交通を謀る等、驚く可き勢で移り行くのを見る。然るに反つて米人達が支那へ来て、変挺なる家を建てるので、若い支那人は妙な氣になつて眺めてゐる。

清水安三「華府會議と支那」（『表現』第2巻第4号、1922年4月1日）221～228頁。

一

太平洋會議の開かれたことに依つて、支那には少からず得るところがあつた。それは利権を得たといふことよりも、寧ろ支那が自らを知り、更に世界がどれだけ支那に厚意を有するかを知悉し得たことであつた。

支那が随分思ひ切つて之迄浮調子に離立てられ得たのも、他国の厚意に信頼したからであつた。然るにその大抵どの位支那を援助して呉れるか、見透かし得たことは支那の今回得た最もよい獲物であつた。支那の多くの新聞が、声を揃へて、支那は自立する爲めに醒起せねばならぬ。支那は余に米國に依頼し過ぎた。支那は五十年百年の後の爲めに、覚醒せねばならぬといふ風に論述した。

支那がよい拾物したる裡に、今一つの貴い経験がある。それは支那の國權恢復に関する要素が、原則として承認せられたことである、各國全權は原則としてならば、何んでも容れるのが今回の太平洋會議の傾向であつた。支那の治外法權もまた原則として承けられたに過ぎぬ。支那の國論は何時も書生論であつて当局者がその書生論に引かれがちである間、各國は原則としてのみ支那を厚遇するのは止むを得ぬことであらう。支那がこの原則を実施するやうに、他國を奮發せしめる爲めには、幾多の改造なり進歩がなければならぬ。支那人は適切に之を感じた。

二

北京天安門前といへば、日本の日比谷公園に相当する。十二月十二日天安門前に勢揃した北京學生二万は、正陽門から哈達門、それから外交部へと押掛けた。その示威運動を見て種々の感想を得た。

感想の第一は非常に静態であつたことである。日本のデモンストレーションならば、危険を帯

びるのであつたが、支那のは咳一つせぬ程に沈んでゐた。ここにも国民性の差異を發見し得るだらうが、殆んど物足らぬ程に、氣力の乏しいものであつた。尤も警察の訓令なり、約束があつたのではあらうが、あつたにしても群集心理で以て、之を引破るのがあり勝ちであるにも拘らず、静かであつた。

感想の二は、排日の気分の少なかつたことである。山東問題の示威であり乍ら、排日的文字ある旗等見出しえなかつた。日貨排斥等といふ文字は今回に限つて殆んど見受けなかつた。随分捜したが一枚も日貨排斥に関するパンフレッドを獲なかつた。これは日本の声明したる山東交渉案が、支那人には口では兎も角も、心では、それ位は妥当だと考へられてるからだらうか。日本が独逸を追払つたのであつて、支那は何等の犠牲を払はなかつたことを知るつてゐる為めであつたか、それとも近来外国に信頼する心持を棄てねばならぬ情勢を見取つて日支親和を望む為めであらうか、兎も角も排日氣勢は例年に比べて濃厚であつたといはれぬ。

三

女学生が数百名混つて、デモンストレーションの列に加つてゐたが、確に四分の一は断髪してゐた。男子の如くに髪を中央から、或は左側から分けてゐた。男女学生の區別はスカートを着てゐるとみないとで、漸く区分出来る程であつた。支那女学生の服装は、日本女学生のそれに比して、大層立派であるのだが、その断髪されたことに依つて、一層興味あるものだつた。支那の婦人問題は日本に於けるよりも、もつとこんがらかつてゐる。支那の家庭は婦人に取つて日本のそれ以上に惨めである。これを改造するには女学生の大きな重荷であらねばならぬ。然しデモンストレーションを見てゐる裡に、男児が氣力ないに反して、女子には日本女学生以上に元氣のある如く見えた。見えた丈けでも感想になるまいか。

四

今ごろアメリカの真似でもあるまいに、対支文化政策を考へるものが、日本に多く出て来た。然し若しも何等か政策として之を行ふとすれば、それは必ず失敗する。失望するのみならず失敗に終る。日本を愛するが故に、支那人を教育するといふ位腑に落ちぬことはない。支那人の為めを思ふからこそ支那人を教育するでこそあれ、愛日本心から支那に学校を拵へることは動機からして間違つてゐる。

愛日本心を基調として支那人教育をやるならば、必ず愛中国心である支那人を作る。愛中国心ある者は排日者となる、見よ日本の教育を受けた留日学生は排日者ではないか。彼達が排日することは即ち日本教育の成功したものに外ならない。

若しも支那人を教育するならば、それは支那人を愛するに人類愛を以てし、世界兄弟主義を基調とせねばならぬ。そうすれば愛中国者が出やうが、親日者が輩出しやうが失望する訳はない。又そういふ大い広い人類愛によつて接してゐる時に本当の日本の為めになる事業が出来て来る。日本を愛する者は、日本を棄て、忘れて、而して口に言出さずと雖、日本を忘れず思ふところを泌出すがよい。かゝる高尚なる心持に依つてのみ支那の文化に日本人も一指の勞を参加せしめ得る。その他の意味に於ける国家政策としての教育は、支那子弟をして謬らしむものであつて両国の為めに更に益する所が尠い。

五

議会で確か加藤といふ代議士であつたか、支那問題に関して恣いふ論調を喋つてゐた。「対

支政策は失敗であつた。支那国民性として、譲歩すれば必ず増長するに決まつてゐる。それを……」。私共とても対支政策の成功を嘆称するものではないが、「支那国民性」といふ理由が腑に落ち兼ねる。また青島の居留民が大層意気巻いて出した宣言書にも、「支那国民性を知らずして云々」とあつた。

ベルトランド、ラッセルが去年二月の「アトランチックモンスリー」に寄せてゐる論文の裡に支那国民性を論じてゐる〔。〕「曾てから支那に行つたものが、何か支那人を不可思議なものやうに吹聴し來つた。けれども自分はそうは思はぬ。支那人と喋つてゐるのも英人と語つてゐるのも一寸も違はない」と〔。〕私共は一ついふと二つ目に支那はわからぬのだの、恚うだのと批判するが、ラッセルに教へられるところありはすまいか。

私共は異人のやつた失敗の一つ二つを先づ数へ挙げることにせう。外人達の在支事業といへば基督教事業であるが、彼達の事業が近来頓と映えぬ。先年までは秀才の多くは彼達の学校に學んだのであるが、今では學資金の少々不自由なものが、多く基督教會立の大學に行き、秀才は官立に集るやうである。恚うなる為めの原因は外にもあるが、其一大原因は外人達が保守的であつたからである。どういふ風に進歩的でなかつたかといふに、私共は彼達は支那国民性に拘泥し過ぎたところがあつたと思ふ。例へば孔子を尊重する雅量を示したり、蓄妾を大目に見たり、男女同席を實行出来ぬものであるかの如く、思ひ込んだりし來つた。それが為めに反孔論だの男女共學女子解放だのといふ問題は何時も、官立大學に先鞭を付けられた。言ひ換へれば外人達は余に惻愍であつた。もう一つ言ひ換へれば支那国民性風俗其他の研究を参考にし過ぎたのである。少々最初は困難でありましたらうが、思切つて正直にぶつかつて行けば、今日の如き馬鹿は見ないで、何時迄も支那思想界の先頭に立ち、支那国民性の改造に貢献出来たかも知れぬ。

日本人のやつた失敗を挙げればきりがあるまい。二三をいふならば、所謂売國奴を拵へたこともその一つである。支那人は利に敏い賄賂に弱いといふ国民性を見透して、之を買収せむとする。借款には手数料が付くことを教へたのも日本人である。支那人は賭博が好きであるといふ国民性研究の結果〔、〕賭博をして敗けてやる。そうすることが一つの買収になるのである。支那人の家へは人力車よりも馬車、馬車よりか自動車に乗つて行かねば先方が輕蔑するといふので、無い財布をはたいてブウブウ乗つて行く。恚うまで考へて來るともう実に六ツ敷しくて溜らなくなるやうだ。しかし斯かる国民性研究の結果、どれだけ対支政策が成功し、どれだけ日本人の事業がのびたのであらうか。頗る怪しいものだと思ふ。

近来、外人の対支態度は、非常に變りつゝある。變らせたのは先年の五四運動であつたと見てよい。一度五四運動が起るや外人達はニューチャイナの曙を見つけたかのやうに、眼を見張つた。そして支那人を自らよりも以下のものであるとしたことが、間違ひであると解つた。元來支那国民性等といはれた訳は、支那人には之位のところ、これ位の程度、これ位の好みといつたやうな心持に在つた。さういふ下目に掛けた態度を變化せねば、之から後面白く行かぬことが解つた、その態度の變改から當然收穫し得た原則は「真理に國境なし」といふ古い言葉であつたのだ。

私共の欲する所は、支那人も欲するのだとして見ると、現支那にどれだけ悪い支那らしいところがあつても、之を利用したり、之に順應したり、又拘泥したりしないで、寧ろ自分の施されむと欲する所を大胆に施し、自らの欲せざるところを他に施さぬ方が、終極の勝利であるらしい。先達或る支那人が賭博の話をしたときに、「某といふ日本人は馬鹿だ、負けてばかり居る」とい

つてゐた。某は日本人間に社交家を以て聞えてる仁である。某としては何もかも承知の上で負けてゐてすら馬鹿といはれねばならぬ。それよりか「我是日本人、国法不許可要錢」とでもいつて見て居れば、文明国人の威厳と一種の感化を發揮出来るのである。外人達が北戴河といふ避暑地で、督軍達が避暑と称して賭博を打ちに来るのを攻撃して、支那政治に抗議したとかせぬとかいふことが、去夏の一問題となつた。其实こつそり外人達も打つてはゐるが支那人にはさういふ大きい態度を採る。その方が負けて馬鹿にされる一挙兩損よりは何ほか伶俐でありまた支那の為の貢献となる。で、右述べたやうに支那国民性の研究は、対支政策を建立する為の、さう大切な参考資料ではない。寧ろ自国の要求と世界の傾向の方が対支政策の基礎ではあるまいか。

六

劍を用ゐてとつた領地ですら、文化の普及——それは征服国として是非ともやらねば、征服者としての誇を満足せしめ得ないものであるのだが——を謀ることに依つて、被征服者の自覚を促し結極は自決独立となところに落着くやうである〔。〕然るに文化的征服を企て、文化事業を支那に拵へることは取も直さず支那民衆を自覚せしめ、排日等と騒がれるのである。すると成る可くソツトして置けば、一日でも遅く支那の文化が普及して、排日等も發達せぬことになる。日本から考へて特にそう思はれる。といふのは支那の文化が発展する時は、やがて日本人顧問が不要になり、日本からの工芸品が来る必要もなく、結極日本は大なる顧客を失ふことになる。でも永く日本が一日の長としての得を恣にする方針を採らねばならぬ。

然るに近来、日本は猫も杓子も対支文化政策を論ずるやうになつて来た。殊に滑稽なのは、軍人だのそれから浪人達がそれを吹聴することだ。彼等の対支文化政策といふのは、軍国主義の侵略思想を油で上げたやうなものであるさうな。といふ訳は彼達の文化政策が、遂ひ先年までやつて来た侵略主義と一寸も変らぬもので、只名前丈けが変化してゐるのであるらしい。彼達がいふところの議論を解剖して見るならば、(一)英米が大にやつてゐる。到る処に大学があり、小学が建つてゐる。見ても癪だ。我国もやらねば国家としてのプライドに拘らねえ。(二)日本は之迄は支那の権門を買収し得たが、民衆運動の旺盛になつた今日から民衆の歡心を買ふの必要がある。(三)支那民衆の好意を得て置かねば対支貿易は振はぬこれ等が主なる目的である。けれども其(一)は英米と競争するには余に桁違ではないか。去年の北支大飢饉の際にあつた珍話を紹介しよう。日本の或る名前の大きい団体から派遣せられた某といふ代表者が、一万元の救済金を携へて河南省に行つた。すると省長督軍は某達一行と一英人とを支那料理に招いた。宴酣なる頃某は立つてテーブルスピーチを始め、二時間に互る演説をやつた。其間に支那料理が冷えて油がごりごり塊つたことは一同の我慢する所であつた。然るに其演説はくどい話であつた上に、如何にもして日本人の恩を納得させ度いやうな調子であつたが為めに、省長督軍は頬をふくらませ渋面を作つてゐた。某が漸く着席するや、又一名の英国人がやをら身を起して立つた。皆のものはまたかと思つて一英国人に視線を集めた。すると英人は只の一言を以て、「省長督軍閣下 御苦勞を願ふことに依つて、自分の如きものの財も、貴い人名を救ふ役に立つかと思ふと感謝に溢れる」といつて着席した。聞けば其一英人は上海に居る男で、其日自分の財産の半分五万元を持つて来たのであつたさうな。五万元は少し話が大き過ぎるから誤聞もあらうが其英人の耳の垢でも煎じて飲ましてやり度い程に日本人某代表が低級に見えた。之は或る憤慨者がいつて居た話であるから万更嘘でもあるまい〔。〕 どうせ桁が違ふのであるから、頓でもないところに競争心等を出したりしても、追

着かぬではないか。

其(二)の民衆を手懐ける方法としての対支文化政策は、全く考物である。費用の多い割合に、屹度効果は少からう。民衆の歓心を買ふ為には只一つの手取り早い方法がある。それは開放せる外交と、国際正義の上に対支政策を建つることである。悪いことをやれば幾ら何んでも、支那にだつて、恩も糸瓜も忘れて刃向ふ位の勇気を有する。飼犬だつて棒を振上げられちゃ咬み着かねばなるまい。其(三)の支那民衆の好意を得ることも、どうせ目前の利を追ふの類にすぎぬ。支那文化を發達せしめれば、支那は自国の材料と労工で充分に、需要を充し得ることになつて、日本から来る高くつて粗末なものは買はなくともよい訳である。

では、支那に文化事業を開始することは不必要であるか。と考ふるに、それは恠ういふ意味で大に努力すべきだと思ふ [。] 日本の為めにでなく、支那の為に支那文化に貢献することは、先進国民としての義侠であると信ずる。しかし日本の利益を主意としては、徹底したる意識を為さぬものと断定し得る。私共は隣家のお神の髪を梳き乍ら、後から貰へる駄賃を勘定して得るやうな、さもしい娘であつてはならぬ。私共は政策としてでなく、支那文化の為に一指を染めさせて貰ふの心持ちで、やらなければ嘘である。政策といへば既に、政策ならば用心せねばならぬといふことになつて、策政的意義を削減して仕舞ふ。

以上述べた如く、文化政策としてでなく、日本は黄檗に来つた隠元と同じ心持ちで、支那文化を声援すべきであるが、政治家や軍人達が喧しくいふべきものではないと信ずる。

七

議会に於ても対支借款に関する質問があつた。外相の答弁の裡にも憂慮に堪へぬとあつた。其実どれだけ憂慮してるか私共の知つたことではないが、これに依ると反つて勝手な悦に入つてるかも知れぬ。外相がさう考へてるかも知れぬといふよりか、日本の支那通なるものが、それを憂慮に堪へるとも堪へぬとも考へないで、もつと借せ位にしか思つてゐまい。

大体日本の対支政策位、粗雑な大雑把なものはないと、外人達が言つてるさうだ。さうして日本の支那に対する大胆なのに驚いてゐる。尤も近来は戦々競々とし出したが、それでも矢張幡随院式、又は支那浪人式の外交嗅味が抜けぬ。其結果貸した金が回収出来なくても、利子一文入らないでも割合に呑気であるらしい。機会あらばもつと貸出しても構はぬ位に考へてる。有線電信借款の如きでも、何時の間にか誰かの懐に入つて仕舞つてゐても何等不足額を見せやうとしない。参政借款が何等支那に貢献するところのなかつたことを考へて見るものも少い。慈善事業として貸出してるかの如く、太腹である。其太い腹のどん底には、何かになる、何かにならう位の夢がある丈で、少し勘定もしては居らぬ。其夢が醒めてからでないかと解らぬらしい。

無線電信の請負事業位、その滑稽さ加減を曝露したものはあるまい。あれが日本の手に請負された時には、何か鬼の首でも取つた如くに喜んだが、出来て見ると何十万円かの欠損であつた。欠損する為めに日本の職工は職務上の負債、致死の犠牲を払つた。さうした馬鹿を見た上に、粗雑にして役に立たぬとまで批評せられ、而も上海にも米国の請負の無線電信が建築せられることになつた。斯くて算盤を採らぬ幡随院式の頭に依る仕事はギヤフンと参つた。

もう時代が浪人の出姿つて、対支政策を彼はいふことを許さぬ。之からは経済的頭腦の明晰なるものに依つて、凡てが仕組まれねばならぬ。腹で外交する時代は去つて頭でやる時代が来たのである。わけて華府会議はその時徴である。各国が軍国的外交を棄て、経済的發展に採り懸

る勢揃として華府会議を見るべきではないか。従来は軍艦に乗つて支那に来つたものが商船に乗つて鉄砲丸の代りに、物資を投出さんとする。

経済的競争の為めの出資は、徹頭徹尾経済的利得を目的とする。然るに日本の対支出資は何時もかも、国家的主義を動機に付けて、資産家を動かさうとする。国家的意義といふのは、侵略の為にする準備行動であるから、算盤を持たぬ。過失を見越す丈けの勇氣を有する。さうした金の出資は腹の底を見透されて、必ず排日運動の種となる。貸して排斥せられる位馬鹿々々しことはないのであるが、杜撰な頭にはそれがよく解らないのだから困る。

かゝる頭でやつてゐては、必ず支那問題が日本を禍するとも利益することはあるまい。それよりか、英米の採りつゝあるが如き対支方針を採つて、堅実なる基礎を据ゑねばなるまい。英米の採れる方針といふのは、支那を益しやうと思ふ宗教家教育者は徹底して、支那文化の為に貢献し、些少の応酬^マだも期待せない。同時に政治家と商人とは自国の経済的利益と支那民衆の輿論とを念頭に於て、飽くまで商人根性で行かうとする。

日本の如くに文化事業をやるにも、自国の為めに企つる如きさもしい動機を有し、外交と商売をやる時に支那に慈善でもする如き心持を有する。丸であべこべである。之位見当違の政策はあるまい。其見当違の結果、文化事業が生徒募集や患者引附に困り、外交が金を貸出しておまけに排日騒ぎと出られる。(二月二十三日)

清水安三「北京通信」(『基督教世界』第2002号, 1922年4月6日) 5頁。

学校 去年五月にスタートを切つた私達の支那人小学校は、彼是一年を過ぎました。こん年は数へ年の二つ、二歳といへば兎も角も歯も生えるべく、匍匐もする年ですから、大事に育てねばならぬと心を尽してゐます。五十二名の子供が、一年間雪の日にも雨の日にもよく出席しました。最初は六十名ありましたが、借りた家が余に小さいので、二名を断りました次第、何といふ可憐な仕業をしたとでせう、けれどもそうせねばその生徒の机が邪魔になつてドアが締らないのでした。

正月には子供が毎日三々五々私達の住居に年禮に来ました。

「先生、磕頭々々をしやうか鞠躬をしやうか」

とどれもの子供が聞くのでした。すると私達は鞠躬でよいといふので彼達も鞠躬で済ませました。けれども中には磕頭々々をやつた念者をありました[。] 磕頭々々は跪いで、頭で地面を叩くのです。鞠躬は日本式の首を深く下げる最敬礼です。年禮に来た子供には、一人前二銭の菓子を食べさせて帰りました。色んな話をして聞かせたり、手品をして見せたり、歌を唄はせたりしてキヤツキヤツ笑はせました。確か二日の日でした。

「先生はどこの人ですか、南方でせう」

生徒は私共を日本人だと感じてゐないことを私共は知つて、一つは不思議に一つは私共の仕事が徹底してるのを感じました。どう徹底してゐるかといふにそれは国家の政策めいた日本人のお底を感じせしむるやうな嗅味を加えて居ないからこそ、恚^イふいふ質問が出るのではありますまいか。

校舎 去年十月、私は祈の一つを抱いて日本に帰りまして東京で一生懸命に募金の法を講じました。けれどもそれは失敗でした。で、悲しみを抱いて神戸に参り、或る日田村新吉様を訪ねま

した。三時から七時まで私は熱誠を披歴して、雄志を告白しました。すると田村さんは絶えずうなずいて居らっしゃいましたが、ふと

「一寸待ちなさい。」

そうして田村さんは隣室へ行かれました。私は小用に入らつしやつたかと思つてみますと「今神様に、あなたに大金すべきか、どうかを、お尋ねしました。そうしたら出しておやりなさいと仰せられた」

噫田村さんはお祈りして来られたのでした。そうして金五千円也を寄附して下さいました。

田村様から神様へ、神様から私共へ下さつたお金も、我校の基礎となつたとは意義あると思ひます。我校は帝国の対支政策から生まれたとは、永久に記念すべきだと思ふ。更に其後校舎建築費として更に森村豊明会から五千円を頂きました。私は雨の降る総会の第三日目に、成瀬仁藏先生の墓に参り、そうして我雄志を神にねだり込んだのでした。成瀬さんを援助されたやうに森村さん第二代も援助して下さいました。（つゞく）

清水安三「世界基督教学生大会参列感想」（『北京週報』第13号，1922年4月16日）14頁。

一、全体の気分

基督教学生大会の会場内外に漲つてゐる気分は、「温かい」ものであつた。三十二民族から派遣せられた各種の人間が、極めてフランクにまたオープンハートに相交つたことであつた。赤い顔と黒い顔とが頬もすれすれに鳩首して、何かを論じ、語りあつてゐる。白い手と黄い手とがアームインアームで、散歩してる様[.] 何ともいへぬ感じがした。そこは全くのこと人種の差別なく、そこには何等暗い声が聞こえなかつた。

二、支那学生

支那学生位日本人を温かい心持を以て迎へたものはなかつた。見せつけでないかと思はるる位特別に日本人には親切であつた。若しも白色の人々の傍に日本人学生が佇んでゐるならば、屹度支那学生が、歩かうではないか等といひ寄つて来た[.] ノールウエーだのフィンランドの人々と私達が歩いてる時も支那人の学生が交際を横取つて色んな親切味を見せて呉れた。

三、朝鮮学生

朝鮮の人達は、何となく私達と墻へだつる心持を抱いてゐた。例へばゼネラルセクレタリーの挨拶の時の如きは、初めにアメリカの学生に対して、挨拶してるかの如うに、喋りかけて。終に英仏の名を加へて日本人には挨拶せぬといつたやうな風に思はるゝやうなところがあつた。これは私があまりにサスピシリアスであるからかも知れぬが、そうも思へた。

わけて、最後の日の近く時に、何かパンフレットのやうなものを、配布して、日本攻撃のプロパガンダをやつた。尤もそれは朝鮮の代表がやつたのでなくつて、上海辺から、こつそりやつて来たのだと弁解したが[.] 兎も角、この会の為めには惜むべき暗い出来事であつた、けれども日本代表の兄ふつた態度によつて、それが全体の空気をどうするといふ問題にもならなかつた。

四、印度の学生

真とに東洋の哲学国の人達丈けその頭は、思切つてど^マレヤブであつた。その人達は飽くまで理想論に徹しようとした。その為めに英人と大抗論をおつ始めた。

印度の代表は、飽くまで絶対非戦論を主張した。そうして無抵抗主義を主張した。その思想は

今日印度を風靡してるガンダイの思想そのままであつた。飽くまで真理の把持を主張するが決してその為めに刀を持つことを許されぬ。

之に反して英国の人又支那米国のものは、真理の為めには人を殺してもよいといつた。日本の代表は大部分は後者であつたが、一二絶対非戦論をとへた。印度の人達は非戦を以て英人の侵略を追払ふとする心持が心の底から燃えてゐた〔。〕そうして良心と神に迫つて英人を見えぬ刀で切り込んだのであつた。

この大議論の為に、二日間のジスカッションを延して、大にやつたが結局、真理として非戦論の正しいことを認め、正当防衛の手段のあり得ることを認めることに依つて、落ち着いた。

五、モット博士

あのビスマルクを思出つる程の頑丈な人物を、凡ての集会の中心に見出して私達は一種の威圧を感じた〔。〕

青年会の世界的結合は殆んど、モットに依つて行はれ、モットなくしてフェデレーションはないと思はしめた。それ程にモット博士が、思つたよりもモット偉大であるのに驚いた。

モット博士の次に目立つた人物はホジキングといふ英人だつた。万国平和協会の理事として四川に働いてるミツシヨナリイであるそうだがこの男が、人格としてモットの次に目についた〔。〕支那にもこのやうな人物が宣教師として働いてるかと思はせられた。

モット、ホジキングに次いで、目についたのは、デビットユイであつた。余日章のことである。彼は日本の代表等とは、比較にならぬ程に、一段人間が上であつた。そうしてその印象はやり手で、そいしてレフアインゼンツルマンであつたと思ふ。

清水安三「或る男の神」〔『生命』第258号、1922年6月5日〕43～49頁。

この文章に出て来る「彼」と私とを同一人間だ等と想像して呉れちや困りますよ。それは全く誤解といふことになるんですから。無論私は彼をアプリシエイトできますが

彼はハクスレーのいふた科学的精神を自らの精神だと、いひひ来つた。何でも、かんでも、Ex perience とそれから Experinent の出来ぬ、やれぬことは信ぜなかつた。信じやうと思つても信ぜられなかつた。

彼は科学すら、癡に觸つてゐた。大きな、馬鹿に大きな根本的な問題を、大膽に思ひ切つて乱暴に仮説してる科学が、其癖小ッばけなのみの目玉程の小さいことをほじくり出して、それを證明し、批判し解説してるのが、ちゃんちやら可笑しいと思つてゐた。科学をすら冷笑したくなるんだから、無論彼に取つては、宗教てなものは寄り着かうともせなかつた。

その癖彼は寂しかつた。

ある年の秋であつた。彼は上野の文展を見た。

沢山の画の中で、それが美しい爲めでもなく、雄偉な製作だと感ぜしめたのもなく、只ひよつとしたことから、彼の心をとらへた画があつた。その画の前には、群集の誰もが足を止めやうとはせなかつた。

「お知合のお出しになつた画？ それとも御自身のでせう」

立番の女から、喋りかけられる位、彼はその画の前に立ち止つた。そうしてその画を見る爲めに、何度か文展に行った。

その画といふのは、いえば何でも無い画だった。一人の佛師が、佛を書いているところだった。その佛が半分あまり出来上つてゐて、佛師がその画から数尺退いてほっと溜息を吐いてるところだった。

「あの佛師、佛を拵えよる」

彼がこの画に目を注いだ第一印象がそれだった。あの佛師が書き終った時には、自ら書いた佛の前に跪坐して、有難さに涙こぼれるだらうか、これが彼の抱いた疑問だった。そうしてこの疑問を解決したい爲めに、画かれてる佛師のすがたに見入った。彼はどんなにかこの画に興味を起された事であらう。

或る日彼は George Albert Coe といふプロフェサーの書いた「宗教の心理」といふ本を読んで見た。そうしたらこういふこと丈けが、ふゝんと感着されるやうになった。

「宗教は未開人にもある。文化人にもやつぱり在る。昔もあつた、今もあつた。子供に子供らしく、大人には大人らしくありよる。神を信じる心理作用を、科学的に研究することは面白い。哲学や何かで議論してゐても、結極水掛け論ぢや。宗教心理学から考究したら面白いぞ」

そういう風に感着き乍らも、頓と気が向かぬ爲めに、ちょっとそう思つた丈けに止めて、ほっといた。そうして二三年の月日が立った。

何かの拍子に、教会をのぞいて見たら、髻の生えた牧師さんが大きな声を張り上げて祈つてつった最中に出喰はした。びつくりして飛び退つて、その儘家路についた。

「今の先生、何をいつてゐたのだらう。からつぽを「あなた」、「あなたは」なんていつて居られた。

彼は途々、今の牧師のことから上野の文展で見た佛師のことを想起した。

「あの牧師、やつぱり、空に佛画を描いて、自身で画いてることを忘れて、拝んでるのではないだらうか」

「Coe のサイコロジーがどう、まい具合にいふとも、野蛮人は野蛮乍らに、子供は子供ながら、昔の人は昔流に、神をこしらえて拝んでるのではないか知らあ」

次の日曜日に、彼は教会へ行つて、こん度はちつと坐り込んでゐた。頓でもない、くどくどしい話を聞かされて彼は教会の門を出た。頭が重くなつたのを、晴らす目的で、彼は郊外に出た。電車で郊外に出た。郊外に出てからも彼は考へさせられた。時々彼は獨り言を喋つて見た。

「教会の神は、うまい具合に造られてある。余程の批評にも堪えられるやうに出来とる。目に見えぬ材料で、愛だの義だの、ちょっとうるほひもつけたり。味もある。拵え方がよい。製法上等だ」

こんな風な暴言を吐いてる時うちに、何時の間にか彼の内心からぞつとするやうな、畏ろしいやうな心持がして来た。

「もう、神のことは考へまい」

それから二三年たつた或日、彼は、考へた。

「自分のやうな男は神が人間を造つたことを、考へても想ふても見る気にならぬのだが、人間が神を作つたこと丈けは確かだ」。

と知つた、悟つた。こう悟つた日から逆つて丁度四日前だったと記憶する。彼は D の図書館で、ウエルズの見ゆる神、有限の神を知つた。

またウイリアム、ライマンの「新時代に於ける神の経験」をも読んだのであつた。そうしてライマンの本のどつかに、次のやうな落書をしておいた。

「基督教の神はうまく作ってあるから、時代々はやりはやりで、どないにでもなる」

彼は「若しか自分のやうな男が神を作るやうなら、どんな神を拵らえるであらう」と考へて見た。それは極く輕やかな心待で考へた丈けのことであつたが、考へてるうちに本気に思索するやうになった。

「矢張、目に見えない神が適當であらう。芸術品であるとしても、偶像、絵画では具合悪い。目の前にちらついてゐては、本気に拵むのも、体裁よかあゝるまい。そればかりでなく、その偶像のはたにばかりへばりついて居る譯には行かない、第一不便だ。そうだ目に見えないことに決定。次にその内容だが、それは極めて愛に溢れた上に、力も無限、義でもある方が神らしい」

「馬鹿なことを考へまい。何だか恐ろしくなつて来た。」

彼は自ら、内心に自分をつゝくものがあるやうな気もし出して来た。尤もその頃ちよいよいよ教会に出は入りしてゐたからでもあつた。

そのことがあつてから、彼は彼の曾て味はぬ真面目な問題にぶつつかつた。その問題は恋の一件であつた。彼はちようど二年前から T といふ少女を愛してゐた。

「T は自分を思つてゐるやうでもあり、全く無関心でもある、何となく不安だ」

彼と T との関係は右の言葉で、十分に言ひ現はされてゐた。彼は二年前のクリスマスの夜、そうと T からプレゼントをもらつたのである。言ひ遅れたが、彼は神を否定し乍らもこの二三年教会に出入してゐた。

プレゼントをもらつた時の挿話を書くことは無駄でないと思ふから、ちよつとばかり書いて置く。

彼が二年前のクリスマスの夜、イブセンのブランドを風呂敷に包みこんで教会へ行つた。

「ある水海のほとりに

水海をへだて、

二人の相愛するものが

住んでゐました。

男は毎夜

盥を浮べて

杓をもつて漕ぎ

女を慕ふて

あめの日も風の夜も、

時を定めて

通ひました。

女は二階の小窓に

ともし火を置き

友の来るを待ちました。

或夜女は

ともし火の消えたるを、

忘れて昼の疲れに、
うたゝ寝ました。
あゝその夜
そうでしたその翌朝
渚の崖に
冷いむくろが
岩に砕かれて
横つてゐました。
Tさん、愛する者は、
小さくつても只一つ丈け、
燈を消さないやうに
せねばなりませぬ
せねばなりませぬ

ブランドの表紙の裏には、こうした物語が書き入れてあつた。彼は性来の憶病で、その風呂敷を開かうか開くまいか、どうして贈らうか、ほんとうに迷つてゐた。迷つてゐた彼に思ひ掛けぬ出来事が起つた。それはT女から、お先に何か知ら、贈物を手にして、彼の前にやって来たことであつた。彼は一寸出し抜かれたやうにも、考へたが、その好機会をとらえてブランドを贈つた。Tから彼に贈つたものは、只ちよつとした文具品だつた。彼はその文具品の中に入つてあつたTの小さい名紙を、蝦蟇口の中へしまつて置いた。そして二年間。その小つぼけな名紙を保存して置いた。その名紙を時折取出して見る爲めに、その名紙が綿のやらに、ぼろぼろしてゐた。

これ丈けの恋物語ならば、そう大層にいふ問題ではないのだが、そのTが結婚したことを聞いた時は、彼も全く驚かされた。はたに見てるものも、可愛そうな位彼は苦しんだ。プラトニックな恋に酔ふてゐた彼は、魂のうずくのをひしひしと感じた。

「何ぜ俺は、もそつと大胆に、自らの愛を發表せなかつたらう。申込まなかつたらう。そういえば、そうだつた。去年の冬、Tの家に泊つた時にTのファザーが、Tの写真を俺に見せて、『どれかを貰つて頂いたらどう』なんてTにいつて置いたことを記憶する。あの時にTのファザーは、それとなく俺の心をさぐつてゐたのだつた。俺は何といふ鈍感な男だつたらう。『こんなお多福の写真なんか要らないや』等とてれかくしに言つちやた。その時にTはぶうぶういって怒つて寫眞を皆しまったことを記憶してゐる。」

彼の回顧と愚痴はこういふものだつた。彼が發表せない中に、申入れない内に、少女は嫁いでしまつたのである。

彼は苦しんだ。そうして、その苦しみのやり場に困つて死といふやうなことも考へて見た。誰もがそこまで行くやうに、彼は悩み、この大い人間苦の解決に、昏迷しちやつた。

或日、彼は自分のつい先達つて製作した神に、祈つて見やうかといふ心持になりもした。しかし直ぐその考の後から、うそだといふ心持もした。

その翌日も、その翌々日も彼は悩んでは、祈る心持になつて見た。そうです。彼は此心の状態を一ヶ月半も続けたでせう。彼がその僅か四十日ばかりの間に、げつそり瘦せて、そうして何と

なく所謂あの神々しい風豊を見せてゐた。

「此頃僕は神を恋ふやうになりました。僕はちよつと目を塞ぐと直ぐ、神を想ひ得るのです。僕は神に抱かれたやうな心持に、時々なるのですが。その時位、私は法悦を感じずる時はありません。」

彼は救はれた。やつと彼の神が出来上つたことを喜んだのは私ばかりでなかつた。(五月五日作)

清水安三「反宗教運動の基督教会に及したる影響」(『北京週報』第20号、1922年6月11日)12頁。

一、

反宗教運動の源流を、陳独秀まで逆るべきである。よしんば北大学生達が、李大釗、李石曾を担いで首領としたにもせよ、源流は陳独秀にある。それは恰も、白話運動、即ち「文学革命」が、胡適にあらざして其源流が、章太炎にあると、同んなじであると思ふ。陳独秀の反孔教、反基督教、反仏教、反宗教の議論が醗酵したものでなければならぬ。

二、

反宗教運動の宣明する二大主義「宗教は科学の進歩を邪魔する。宗教はブルジョアの手先である」は極めて直訳的なもので、支那の現状に根ざして居らぬ。何とならば支那基督教は科学の輸入の為に、大きな貢献をしましたしつゝある。支那基督教はまだまだプロレタリアの宗教であつて、プロレタリアの身方であるらしい。

三、

では、反基督教の興つた所以はどこにあつたか、それは潜在的にきりつと存在してゐる。それは矢張革命運動と排外ブルジョア国の目的にあつた。でこれからも、この方面にのびるであらうと思はれる。

四、

この運動がそうはでに大きくなかなかつた訳は、まるい物がなかつたからだ。若も排日運動のやうに後援を得たら何んぼでもはでにやるであらう。

五、

これだけ反宗教運動を説明して置かんと、「支那基督教会に及したる影響」が書けぬ。

基督教会は、殆んど一つとしてこの運動に反抗する丈けの論文を書き得なかつた。それには二つの理由がある。一つは科学と宗教の関係については、基督教では、もう五十年も前に通り過ぎた問題であるから。二つには支那基督教会が今黄金時代で、どんどん伝導の鍬が入つて行くから、少しも気にならないから。

六、

がしかし、反基督教運動の表れるところに、潜んでゐる排ブルジョア国の心持は、支那基督教会にも大きい影響を与へやうとしてゐる。

「生命」進歩的基督教の機関雑誌には、「基督教の中国化」について多くの人々の意見を求めてゐる。どうして支那の基督教が、基督教の中国化に向つて、前進するであらう。反宗教運動を真向から、論駁せないで、こういふ相手を見抜いたところで、受太刀をしやうと思考するのであらう。

七、

この二週間ばかり前に南京で開かれた協議に於ても、支那の基督教を全部一纏めにして、中華民國基督教会と為そうといふ説が沸騰した。それから、官立国立の学校に基督教の伝導をする必要も、多く考へられてゐる。

八、

支那基督教が、反基督教運動以来、社会主義的傾向を青年の間に濃厚ならしめてゐる。

クリスチャンソシアリストが之から出るであらう。と謂れて居る [。] つまり、スバルゴ等が、クリスチャンボルシエヴィズムを唱へてゐる如くに、支那の基督教徒の方面にもこの方面に思想が延びて行かうとして居る。

九、

右述べた所に依ると、支那の基督教は岐路に立つと言へる。一つは自立独立のクリスチャンナショナリズムの方面へ、今一つはクリスチャン、ソシアリズムの方向へ。この二つの方面は、当分、相反する方向のやうに見えるが、どうせどこの国の基督教徒も、必ず一度は辿る道行と見える。

(六月七日)

清水安三「大正十一年九月 支那人教育崇貞学校報告」〔在北京支那崇貞学校補助方ノ件 自大正十二年三月〕アジア歴史資料センター、Ref.B05015394200、諸学校関係雑件 第一巻 H.4.3.0.12_001、外務省外交史料館〕

支那人教育崇貞学校報告 生徒数 七十五名／経費 月、約百円／経営 日本人

大正十一年九月

北京東總布胡同十七号 清水安三

崇貞学校報告

一、事務報告

◎私は今より六年前、日本組合基督教会から留学を命ぜられて、支那に参つたのであります。欧米人が或は学校を建てて、教会を設けて、支那人の為に尽力してゐるのを見まして、衷心羨ましく存じました。或る秋の午後某といふミッションスクールに、或る米人宣教師を訪問しました時に、私はその宏壯な公会堂、その広い敷地には、何等心引かれはしませんでした。ですけれどもその公会堂の側に佇む小さき便所に、心引着けられました。若しもこの便所程の建物が、自分に与へられるならば、私だつて、「受くるよりも、与ふるは幸なり」といふ真理を、経験して見ることが能きやう。私の両眼から熱い涙が、はらはら流れ出ました。今よりすれば凡ては思出の歡喜に外なりません。

昨年、北支旱災飢饉救済の為に、日華実業協会の事業に参加するを得まして、一万数千円の資金を用ゐて、七百九十名の災童を、その飢餓より救出し得たのであります。疥癬だのトラホームだの、南京虫だの何だのかだのに、悩まされ乍ら、災童に接することは、実に気持ち悪うございました。事務だの会計だのそれもこれも、かなり面倒であつた。そうして幾度か、もうこうした仕事はご免だ等と、歎じました、けれども今となると、当時を追想して、愉快と感謝に堪えないものがあります。支那人の為に尽す、如何にさちなるかなと、回想いたし居ります。

◎その飢饉救済の経験に依つて、この崇貞学校を建立することになりました。恰も当時北京北支旱災救済会委員であつた中山龍次の斡旋で、帝国教育会義捐、綿衣製作費の剰余金五百八拾貳元七拾九仙を学校建設費として頂くことが能きました。実にその金が、本校の礎となつたのであります。続いて日華実業協会工藤鐵男氏の斡旋で、会長澁澤榮一氏の名に依て、貳百元の寄附を受け、漸く基礎を堅むるに至つたのであります。

◎お金があつても、生徒が無ければと、安じ乍ら創立の事務を選びました。然るに、北京朝陽門外は貧民不就学児童の多きところとて、忽ちにして、八十余名の入学希望者がありました。恰巧そうで、音無しそな子供五十名選んで、入学させ、二女教員を聘して、開校することに致しました。大正十年五月二十八日、小さい開校式を開いたのでありますが、思へばその日こそ、我校の永久に記念すべき創立日でありました。

◎月々の母の会に於て、父兄との連絡を取り、啻に生徒とのみならず、この地方の人々と親しまうと心得て居ります。この頃では、色んな相談を申されるやうになりました。聖とは私達日本人よりも習字が、際立つて上達するやうでありますが稍、数学が下手であるやうであります。私が外国人であるから、疎んずる等いふことは、少しもなく、道で出逢ふものなら、奔つて来て衣服にぶら下がる程に、親しみ居ります。

◎今年、三月大阪高木貞衛氏の寄附に依つて、千五百円で約三千坪の土地を買入れました。神戸田村新吉氏、東京森村豊明会より、五千円づゝの寄附を得ましたから、来春早々、校舎建築に取懸る筈であります。実は今年中に、開工する筈でありましたが、愈々開工といふ間に支那官憲との接洽意の如く進まず、残念乍ら、止むを得ず、一年間延期致しました。

◎この九月から、新学年を開始し、一名の教員を増加し、生徒七十五名を収容することといたしました。

七十五名の児童を、教育する為には、毎月約銀百円を要します。この報告を為すに当つて、謹んで江湖の同情贊助に訴ふる所切なるものがあるのであります。

二、会計報告（自大正十年六月至十一年九月）

一、銀壹千七百六拾九弗四拾參仙	総収入高
内訳	
一、銀壹千六百九拾參弗四拾參仙	寄附金
一、銀六拾八弗	利息金
一、銀八弗	手工品売高
一、銀壹千九百八拾七弗九拾壹仙	総支出高
内訳	
一、銀九百六拾弗六拾仙	給料
一、銀貳百九拾七弗八拾仙	設備費
一、銀貳百九拾貳弗	家賃
一、銀壹百零五弗七拾仙	手工材料
一、銀五拾貳弗九拾五仙	事務費
一、銀貳百七拾八弗八拾六仙	諸雜費
差引銀貳百八拾弗四拾八仙	不足高

三、敷地購入費会計報告

一、銀壹千參百九拾九弗貳拾貳仙

内訳

一、銀壹千貳百六拾貳弗

敷地購入費

一、銀七拾五弗七拾貳仙

登記料

一、銀六拾壹弗五拾仙

手数料及其他雑費

一、銀壹千參百四拾四弗（金壹千五百円）

土地購入寄附金

差引銀五拾五弗貳拾貳仙 不足

經常費設備費内ニ算入ス

四、校舎建築資金

一、金壹万円

正金、天津兩銀行ニ預金

五、寄附者芳名録

一、金五千円

神戸 田村新吉殿

一、金五千円

東京 森村豊明会

一、金壹千五百円

大阪 高木貞衛殿

一、銀五百八十二弗七十九仙

東京 帝国教育会

一、金五百円

東京 吉村鐵之助殿

一、金五拾円

福岡 実業視察団

一、金五拾円

日本 衆議院視察団

一、金五拾円

濱寺 大塚維明殿

一、金貳拾円

東京 工藤鐵男婦人殿

一、金拾円

東京 栗塚龍子殿

一、銀貳百弗

東京 日華実業協会

一、銀五拾弗

北京 中山龍次殿

一、銀五拾弗

北京 辻野音羽殿

一、金拾円

東京 佐藤定吉殿

一、銀五弗

大阪 丸山房吉殿

一、銀貳百五拾弗

北京 清水安三

六、其他の報告

飢饉救済事業に依つて、救助せし災童の一人なる田福章（十五歳の少年）は、今秋より天津同文中学に入学させました。この一年間、私は手許に置いて、教育したのですが、何にしる一年半の短日月にて、高等小学を卒業せしめねばならぬのでありますから、果してやり切るかと思ひてゐました。所が算術百点の成績にて入学試験に合格し得た次第で、私共の喜は譬へやうもありません。同文書院監督江藤榮吉氏の尽力にて食料学費を支出して頂くことに成りました。

〈1923年〉32歳

清水安三「支那を恚う見る」（『北京週報』第48号，1923年1月14日）9～11頁。

一、支那共管論者のサイコロジイ

支那人は駄目だ。——この言葉は其処此処でよく聞かされる言葉なのであるが、それはまた怎

うした心理から喋られる言葉であらう。私達はその心理を考察して見る必要がある。

支那人のあたまが駄目なのであらうか。南満医学堂といふ学校は、日支両国人を教育する処である。そこには支那人学生にして、邦人学生を凌ぐものが少なからずあると訊いてゐる。オペリンだのロンビアの大学には日本支那からの留学生と、白色学生と机を並べて勉強してる。そうしてその成績は支那人のあたまが、特に劣つて居られぬことを充分に裏書するそうである。胡適君の哲学史が兎も角も孔子だの老子だの、何だのかだのをよく呑込んで、これをこなし取纏めて書上げてる点に於て、日本から出たあらゆる支那哲学史よりも図抜けてゐるようだ。して見ると支那人のあたまを必ずしも、駄目だと言ふことは出来ぬ。

では支那人のからだは駄目なのであらうか、支那人のからだは垢泥をかきぶたのやうに積上げてみても平気な皮膚を持合せてゐる。その胃袋はどんな安物の中からでも滋養分を吸取れる丈の仕掛に出来上つてゐる。その労働能力は牛馬と競争する程に頑丈である。何でも撫順から大連まで、石炭を運搬するに當つて、冬ならば荷馬車はその経費の多寡に於て、汽車と競争し更に苦力は駄馬と競争能きそうである。世界の何れの間人がやつて来ても、労働者として支那人と一騎打出来そうもない。

それなら支那人は商人として駄目なのか。日本雑貨は日本人の店舗で買ふよりも、何割方安く支那人の店で購得る。大阪から支那人の仕込み来つた日貨はより安価により結実であるといふこと丈考へて見ても、支那人が商人として優越してる事が明かである。労働者として商人として、支那人の優者であることをくどくどしく述べたてる丈けでも実は野暮であるそうなる。

然らば支那人が道德者として駄目なのであらうか。私の友人に竹林愛作といふ画家が居る。この人は年から年中、世界を股にかけて写生旅行をしてる人である。つひこの夏北京に来ていつてゐた。「支那は道に道德の国でこれ位整つた処はない。印度だのビルマだのでは汽車中でちよつとでもうつかりしてゐると、行李だの着てる帽子だのを、かつばらつて行く。」いつてゐた。支那商人がお金を受取つたら最後、領収書の有無に関せず二度と請求することがない。之でなかなか道德の整つた国であるかも知れぬ。

でも支那のボーイが、門銭を取つたり何んかするのを見せ着けられて、きみは腹立たぬか。在支日本人が支那人と交渉を持つ場合の多くは、対支那ボーイであると思ふ。そうしてそのボーイを通して、支那人を知る人々が多いのである。ボーイ達が物を盗む時に、そら誰だつて気持悪るいに決まつてゐる [。] それはうちのワイフばかりではあるまいがしかし門銭を取るものはボーイばかりではない。支那のあらゆる役人が矢張りそれを取るのである。ボーイの取る賄賂を門銭といひ、大官の取る門銭を賄賂といふ丈けのことである。上下皆之れを一つにしてゐるのである。支那人を駄目だといふ心理は、とりもなほさず、支那人が公私混同、瀆職も常ならざる所を取つた心持から発せられる [。]

支那人はサラリー、マンとしての自信無き人間である。支那の商舖の夥計掌櫃が、商売の成績に応じて利益分配を受ける如く制度着けられてゐるものであつて、只の月給取ではないことを知らねばならぬ。支那人のボーイが月給を極く切詰めた所に決定して置いて、あの家は門銭が幾ら、節句の祝儀が幾ら、どれ丈盗めてどれ丈け持出せる、てな具合に胸勘定をしてゐる、それは商舖の夥計を同一心理に在る、支那の役人もだ、古来、京の坊主と田舎の役人は身入りが多いものと相場が決まつて居たのである、少しは取つてもいい、サラリー、マンの道德があつたのである [。]

恰もそれは日本の宿屋の女中見たいなものである。月給は少くともチップで以てシヤンシヤンして居れるのである、共和の民国と時代が變つても、依然としてその支那役人根性が抜け切らぬ所に、羅文幹事件だの五四運動焼打事件が勃発するのである。

支那共管論は支那人を無能力者としたのではない。只、国家のボーイとしての支那人の行方を疑ふたのに外ならない。

二、国家亡びて社会あり

支那人が商人と役人とを、ごつちやにする程に進化してゐる所に、支那人が国家生活者として駄目な所以があつて、社会生活者として優越してゐる所以がある。労働者として強壯であつて兵隊として劣弱である理由もそこにある。といふのはつまり支那人は国家生活の域を脱して、社会生活に生きてゐる訳なのである。が、これを現在国家生活者として隆々羽振をきかせてゐる人達から見ると、駄目なやうに見えるのである。

支那人とても国家生活に生きた時代もあつた〔。〕幾つにも分かれた国家が相争ふた時代もあつたのである。ところが国家生活に飽きた人間達は、国家生活を逃避して、人間らしい生活を恢復してゐた、そうして政治だとか何とかいふ国家生活は、之に關与することを好む念書階級の人達の為すがまゝに委せて仕舞ふた、そのことを最も極端にやつてゐるものは支那の回族である。その荒々しかるべき回族が反つて、政治生活、国家愛から逃避し了せて、只純な社会生活を営んでゐるのである。彼達は世界の何れの民族にも増して平和に互助に生きて居る。

蒙古族であれ、満洲族であり国家生活を支那に布きたいものに、布かせ置いて、大多数の支那人は社会生活にのみ生きやうとして来た。このまゝで行くと国家としての支那は、滅んで行つて、人間生活のみが取残される筈であつた。そうなるに国家別といふものは支那から忘れられて、支那全体を全世界として民族差別撤廢が心から出来上る筈だつた。そうなるに中華に南北なく国境も無かつた筈である。

然るに白人が渡来してこの方支那は世界ではなくして、この世界らしい大い団体を提げて立ち上らなければならなくなつたのである、全体としてでなく一部分として対立せねならなくなつた時に、支那は今更の如く後進国となり下がらねばならなくなつた。負ふた子に負はれて浅瀬を渡る程に、支那は国家生活者として老耄し切つてゐる。国家生活者の成就してゐる今日の先進国は、この老いぼれを頗る齒痒ゆく思つてゐる。一層のこと皆んなで担いで呉れねば動かぬ等と唧つてゐる。

貧乏金持廻持といふことがある。文明もまたそうであるかも知れぬ。この頃エスペラントといふものが流行する。あれを支那語に当てはめるならば、「官話」といつてよいであらう〔。〕支那丈けを世界として、考へられたエスペラントは官話であるまいか〔。〕支那社会生活わけて田舎の生活を頭に持ち乍ら、ギユルドソーシアリズム等と呼んでゐると、ヒヒイと齒を向き出して笑ひ度くなる、無政府主義者が考へてゐる生活と支那回教者の生活がどれ丈け違ふであらうか、その上にまた国家生活の批判が今日の如くに傾いて行くところを見ると、国家生活の全盛時代なる今日の文明は支那にまで進みつゝあるのではあるまいか。

石井某が少し許りつかませると銀行サラリーマンは幾らでも貸出して、ごたごたが起つた、あの伝で行く人間が日一日と殖えて行くやうである。生活そのものがさういふ傾向を帯びてゐるばかりでなく、思想としても国家生活から人間を救出す声が喧しくなつて行く。

その裡に支那は国家生活を喬め直して、世界が現状の支那に成り切つた頃、再び成古斯汗の

勇を振ふかも知れぬ、愛国煙愛国帽、愛国傘、愛国靴 [。] 兎も角国家愛は支那に芽生えかけて、他の国々からは枯れ始めた。矢張貧乏金持は廻持ちなのか知らぬ。

清水安三「北京より(九)一婦女運動(2)」(『讀賣新聞』, 1923年4月20日) 2頁。

女権運動の会長周敏女史は北京女子高等師範の四年生である。見た所廿五六に見えるが聞いて見れば廿二だと云ふ、古けて見える程にしつかりして居る。細面にちんまりした鼻、口も大きくなく齒並が美しい。美しくて叶はぬと謂ふ程に、別嬪ではないが決して醜女ではない。分けてその瞳が好い。彼女の女の眼には理智と純潔が輝いてゐる。近づいてじつと見てみると何となく飽きない処女らしい美が溢れてゐる。

刺を通ずれば外人——日本人だからと云つて些かの隔てもなく、いそいと接待して呉れる中々の愛嬌者である！ まさか此女が——此の娘が全国的に女権運動を捲き起したものは思はれなかつた。「僕、会長の周女史に会ひたいんですが……」「あたくしが周敏なので御座います……」齒切れの良い口調てにつと笑ひ乍ら言つた。

よく見ると彼女の頬には淡いそして小さいそばかすが散つてゐた [。] その日はもう怎うかしてゐたものか其そばかすにまで何だか、引付けられる様な或ものを感じた。「女子参政協進会があるのに、どうして又女権同盟が出来たんです……」

「あたくし達の女権運動は参政許りを運動するものではありません。数千年来、虐げられて来た中国婦人のためにあらゆる女権の恢復を企てるのです。」

「支那の貴女方婦人はどんなに虐げられて来たのですか——承はりたいたいものですね」

「嫁鶏従鶏嫁狗従狗」と云ふ諺がありませう。鶏の女房になれば鶏に服従し、犬に嫁げば犬に従へ！ なんて馬鹿々々しい諺でせう！ 未だ未だ外にも変挺な道徳がありますよ、少くしては親に従ひ嫁しては夫に従ひ老ひては子に従へ [。] 何んと云ふ人を馬鹿にした道徳でせう。之位従ふても女子と小人は養ひ難しと謂はれるのですから堪りませんものね [。]

テキパキとしたその支那語にはとうに私達の耳は感心してしまうてゐた。

「女権を恢復するにはどうしたらよいでせう？」

「第一婦人職業……」

「え、！ 婦人職業ですと、僕は支那に来て曾て店頭で女の働いて居るのを見たことがない……」

女史は私達の言葉を遮つて、

此の頃上海に四つばかり女商店が出来ましたのよ、広東上海北京天津の会社銀行等にはかなり沢山の女事務員が働いてゐます。どうしても財産と職業を男子から取り返さなければ女権は恢復しないと申ひます。そして次に教育方面に私共は奮闘せねばなりません。婦人を男子の輕蔑から救ひ出すものは教育だと信じます。第三は婦女風俗習慣の矯正が大切だと考へます。ですから私共は纏足の禁止 [、] 売娼の禁止、女工保護、母性保護に着目したのでございます……」

すらりつとしたどちらかと云へば、瘠形の女ではあるが、肉がよくしまつてゐて、その語氣に熱が溢れてゐた。

女子参政協進会長王孝英会長も二十三四の娘である。彼女は何時でも何かの運動があればその会長に推される人なのであるが中々しつかり者である。別に支那の婦人運動者は美人でなくてはな

らんと決まつて居まいが、王孝英嬢も飛切りの別嬪であり、美人である許りでなく頭の好い女学生だと云ふので衆望を担つて居るさうだ。

支那婦人運動のリーダーを描く為に周王両女史を槍玉に揚げた。思ふに支那婦人運動は民衆的運動であつて別に有名な女丈夫、女学者があるわけではない[。] 会長も幹事も、リーダーも陣笠も皆女学生である、故に来年になれば誰が会長に選ばれるやら誰が幹事に推されるやら皆目分らぬ。で最近支那婦人運動の特徴は民衆的であると云ふ所にありはすまいか。

清水安三「北京に於ける耶蘇教」(丸山昏迷編『北京 増訂版第三版』大阪屋号書店、1923年10月13日) 234～249頁。

支那に於ける耶蘇教

支那研究の資料として、外人事業の調査を重要視するのは日本近來の傾向である。果して多くの人々が謂ふ意味に於て重要なものだから甚だ疑問を抱かざるを得ぬが、知りたい人々もあらうからざつと書いて置く。

全支那に入つてゐる新教の宣教師は約六千名である、この中には男子は二千人しか居らぬといふのは宣教師の女房等も女宣教師として加算せられてゐるからである、彼等の生活程度は月額三百弗程度であつて子供があれば一人に三十弗といふ具合に加給せられてゐる。その喋る支那語は全く手に入つたもので、学問も相当にある。彼等は大学を出て神学校を卒つて來たものである。その人格に於ても日本に居る宣教師と優るとも劣らぬ。時折愚かな宣教師の噂を聞くが、兎角しくじつた者のことは目立つのである、逢つて見ると真面目なものだ。

これ等宣教師の下に活動せる支那人は二萬四千六百名で信徒は三十五萬人ある、その教会に献金する銀額六十萬元であるから馬鹿にならぬ、日本人の中には西洋人は金で人を釣つてゐる如く思ふが、彼等支那信徒とても受くるより与ふるは幸なり位のことは知りもし行ひもしてゐる。

教会は三千個處あつて如何なる山間僻地にも教会堂の建設しあるを見る。割合に団結力が鞏固であつて自給独立の教会が年々増加して行く。これ等の教会は五十二派の教派に分かれてゐるが、布教区域を定めてやつてゐるから相争ふといふことがない。最も古くから宣伝してゐるものは倫敦伝道会であつて、一千八百三十二年ロバートモリソンが広東に來航して、支那研究及び伝道に従ふたことに始つてゐる。有名な宣教師ウイリアムテラー等の活動に依つて、未だ百年に充たずして今日の如き成績を挙げた。今日では回教と共に生きた宗教として並立せられる程にまで至つたことは先づ成功であらう。マスクミユラーに依れば、回教と耶蘇教は殆んど同一なるものであるそうだから、支那に於ては宗教として民心に響くものが両教にあるらしい。教会堂数六千三百七十四信徒三十四萬四千九百七十四名、外人宣教師千二百九十九名、支那人千五十八名伝道師一萬一千百八十七名ある。

宣伝事業に伴ふて教育事業、医療事業、感化慈善事業もまた熱誠なる精神と多額の経費を以て経営せられて居る。先づ教育事業を見るに、外人職員六千五百六十二名余、支那人二萬四千六百二十七名が育英に従事してゐる。学校の種類は国民小学校生徒十五萬七百七十九名、高等小学生三萬二千八百廿九名、中等校^ミ生徒一萬五千二百十三名、学校数五百十二校、医学校百八十、医学生一萬余名、総合大学四個、専門学校三十八、男学生四千二百名、女学生二百五十名、師範学校数四十、学生一千名、神学校百四十三、学生千一百名、その普及せることと設備の整頓せるこ

とに於て決して国立諸学校に劣らぬで支那の教育の半は外人の手によつて成つてるといつても敢て暴言ではあるまい。

医療事業を観察するに外人医師四百五十七名あつて、外に外人看護婦三百四十名を算する。支那人医師四百六十二名、助手一千五百名、支那人看護婦四百名、医院の建築物三百二十三、一年間に収容する患者十四萬五千、入院患者ベッド数一萬七千、その多くは施療である。医院内の薬局に非る薬局が三百二十三あつて、単独に施薬に従事してゐる、各地医師と土民との情誼は厚く、命の恩人として神の如くに仰がれてゐる。九年中国宣医会が出来て全国的に統一せられるやうになつた、で英米仏丁独の各教派の共同事業になつた訳である。独り日本の同仁医院のみが聯絡してゐないやうである。

孤児院の数は三十八、孤児二千を収容してゐる。盲啞院は各省に一個宛を設立してあるが無論外人の補助に依つて建つてゐるものである。以上述べたところは支那全土に於ける新教の概況であるが、旧教は如何なる教勢を有してゐるかといふに、是亦更に大なる勢力を有して我等を驚かすものがある。

旧教には天主教ニコライ等があつて古い歴史を有する、古い話では景教が支那に伝はつて処々に十字寺を建て、ゐたことが歴史に見える。長安に於ける景教碑は既に世に名高かく、又北京の西方房山県十字寺にも其の跡を残してゐる、十四世紀以来ローマ、カソリック教は大陸を縦断して伝來した。十世紀の半頃蒙古に二名の僧が來つて聖書を蒙古語に訳し、伝道に勤めたがその成果はそう大きくはなかつた。寧ろフランシスロヨラ〔、〕ザビエーが南方から航來して布教したのが今日の旧教の基礎となつた。従つて南方に濃く北方に淡いやうであるが、北方と雖もその教勢は新教の及ぶところではない。司祭神父（宣教師）の多くは仏人、西班牙人、葡萄牙人、和蘭人、英国人である、皆廣大なる土地を所有した借家を所有して潤沢なる伝道資金を持つてゐる、上海漢口等の目抜の土地は皆彼等のものだ、神父（監督）は五十名、欧州人の司祭は一千五百名、支那人祭司七百五十名、信徒六百四十萬、按手を受けるもの二十萬ある。その経営する学校めいた孤児院は極めて多く、教徒は必ずその教会に属する学校に子弟を入学せしめる。それは恰も回教徒が自らその教徒の子弟を教育すると同じである。天主教徒は日本の仏教門徒の如く、親が信者ならば子孫末代に至るまで信者として数へるから、的確な信徒の数はわからぬ。

宣教師等は普仏戦後に於て仏国が敗北せしよりこの方、本国の国産を盛んならしむるために、本国から衣服飲料その他を物品にて支給せられ、生活費は六七十弗である。英米の宣教師が贅沢なる邸宅を構へ、充分に文化生活を味はい得るに比して、旧教徒の宣教師は支那人と共に住居し苦力列車で旅行し修道院の忍苦生活を棄てない。宣教師は童男童女であつて一種の服装をなしてゐる。その教会は財産を多く有し、無産者に職を与へ資本を提供して、今日では最も堅固なる団体を成してゐる。信徒達は金銭を遠方に送る時にも、司祭に之を託し司祭の証を得て之を先方に送れば、到る處で他の司祭より受取るを得るといふ。故にそれが為替業に似たる仕事にもなつてゐる。銀行業が発達せぬところに生れそうな宣教師の仕事である、日本人はこれを見て宣教師が商売気あるものの如く思惟して俗物扱ひにするが、現状の支那では自ら宣教師を信用すること他よりも厚から、遂に純宗教家が色々の別業を生むやうになるのであらう。奥地へ行くと外人旅行者の宿を引受けたり本国商人のサンプルを陳列して商人に便宜を与へてゐるのを見る。

彼等の所有する土地財産敷地は、凡て支那政府の手の及ばぬもので勿論無税である、近来日本

商人の借りてゐる家を買受けて、法外の家賃を要求したり立退を求むるものもあるそうだが、若しそうであつたら天罰を免れまい。

一、北京に於ける耶蘇教会

北京に入れる耶蘇教会の教派と、其宣教師の数を示せば

倫敦伝道会	英人八名
公理会（アメリカンボルド）	米人十五名
美以美会（メソジスト）	米人二十四名
聯合メソジスト	英人二名
長老会	米人十一名
安立甘会	英人十五名
デンマルクルツテル教会	丁人六名
インデペンデント	英米三名
内地会	米人一名
青年会	米人十三名
救世軍	英人十八名

の如くである。其信徒は一萬五千名、就中、美以美、倫敦会は最も教勢盛んである。

教会を見物して歩くことは考物で信徒は大層迷惑する。といふのは説教中にどやどやと入つて又出て行く素見の視察者は、信徒の礼拝気分をまるで害してしまふ。何時も支那人牧師のこぼすことは、日本人がスパイ的に来聴して、支那語の稽古旁々聞いてゐる。で会堂の入口で銅十枚を献金せしめられても、罌子で支那語を稽古することを思へば、安いものもなど思つてゐるらしといふことである。そんなに嫌れてまで巡礼見物をせないでもよいやうに、こゝにざつと書いて置く。見ないで見た振りしたいものの御参考にもならう。

【美以美会】崇文門の北東側に、美以美教会がある。凡そ北京の教会は学校と同所にある。門を入つて直ぐ左に大礼拝堂がある、日本にはこれ丈け大きな教会堂がない。集るものは学生、その卒業生、信徒である。毎日曜日朝十時から日曜学校が開かれ、少年少女、学生、大人、老人等が数十組に分れてバイブルを研究する。午前十一時から莊嚴なる礼拝が開かれる。集るもの三百から二千名である。例の馮玉祥は此教会の信徒である。

教会堂の前を東すると。両側に外人教師の邸宅が森林の中に小ぢんまりと建つてゐる。更に東するとそこには燕京大学がある。

【倫敦会】東單牌樓を北行すると左側に、中華基督教会を見る。中国人自らが設立する教会で西洋人と関係がない。英文夜学校と小学校とを経営してゐる。日曜日には二百名の信徒が集る。序に言ふ、阜城門裡白塔寺の東側に西堂があつて、そこに倫敦会の本部がある。それには一千名の信徒が集つて、萃文中学、萃文女学校が建つてゐる。

【協和医学校】中華教会の前には、新らしい邸宅が建つてゐる。之はロツクフェラー医院の医師が住む家である。新開路を東すると右側に協和医院があつて、中華教会の南側にはその医学校がある。学生男女二百名を有する。一千九百零六年二月英人医師ロツクハルト氏に依て開設せられ、英米独伊の医師が之を輔佐して、今日に至つたものである。西太后及び支那大官の寄附に依て漸次拡張せられた。原来是倫敦会の経営するところであつたが、米人ロツクフェラーの二千萬円寄

附するに及んで国際的なものとなつた。今米人グリーン氏を事務長として三条胡同豫王府に一大医院が建築せられた、この建築と設備は Very best を標語として企画せられたものであるから、米本国にも稀に見るものであると云ふ。医院の入院費は銀參十仙で足るといふから、貧民はその恩恵を受くること厚いものがある。

【基督教青年会】一千九百八十年米人ゲエリー氏が米市街に之を開いた。中華基督教会から続いて北すれば左側に赤煉瓦の洋館を見る。それが北京の青年会館であつて、エドワード、バルゼス両氏が事務を執つてゐる。その経営するところ甚だ多い。財政商業学校、英文夜学校はその教育部であつて、玉突、体操、ボクイ^マスカウトはその運動部である。ボオイ^マスカウトを米人がやつてゐるから、日本人が直ぐ疑つて米国の侵略主義を彼はいふものがある。けれどもボオイ^マスカウトは英人パウエル卿の造つた体育を主旨とするものであつて、日本にも多く成団しつゝある。茲には二千名を入れるに足るところの講演場があつて、靈的修養の爲めに時々講演会を開く。外に読書室、寄宿舎、食堂等があつて便宜に需要に応じてゐる。募集したる会員は三千六百名に達して居る。この会館は米国フィラデルフィアの実業家ウアナメーカーの設立せしものである。

【公理会】青年会より燈市口に到る間にいふべき事業が多い。青年会の南隣煤渣胡同には米国聖經会がある。これは聖書を普及販売する事業で多くの男女をして路傍でまたは戸別で売却せしめてゐる。椿樹胡同にはシユレ氏の建設したる盲啞院があつて不具の児童に教育を授けて居る。又同胡同に女子青年会がある。青年会は千九百十二年ミスキンヅカザリン氏が創設したもので、翌年ミスセバリンテレサ来つて共に矯風会、青年会を開始した。纏足、人身売買に反抗し、畜妾の廃止を提唱してゐる。

燈市口にはアメリカンボルドの本拠がある。公理会の会堂は宏壮なる点に於て、美以美の会堂に劣らない。毎日曜日には三百名から五百名集合する。教会立の学校には育英小学校、貝満女子学校、聖道女学校があつて、学生総数五百名を有する。燕京大学女校は燈市口同福夾道にあつて、滙文女学校と合し女子大学となつた。女学生七十名、理科文科の二科に分れてゐる。

【華語学校】燈市口南側にあつて、米人ベタス氏は全国青年会名誉主事を兼ねて校長に當つてゐる。宣教師候補、商人に華語を教へてゐる。学生三十数名ある。

【救世軍本営ウイリアムブース記念堂】救世軍記念堂が出来た、建物は半洋半中の怪体な建物であるが、なかなか仕事はしてゐる、貧民の爲めに風呂屋をしたり、殺虫設備をなして蚤、南京虫の退治を行つてゐる、伝道も盛んである。兵士は八百二十名、士官百二十名、将校は大抵外人である。

【長老会】燈市口より鼓楼に北行せば、道の南側に長老会がある。矢張り曜日には三百名から五百名のものが集会する。附属には中学、専門科、幼稚園小学等を有する。

【聖公会】英国人の経営するところであつて、宣武門と西單牌樓との中間西側にある。その附属事業は絨線胡同の崇徳書院である。

之で先づ新教の代表的なるものを見物した訳である。この見物の途上、多くの福音堂なるものを見る。それは各教会の出張所であつて、それで伝道を普及して日曜日には会堂に集るやうになつてゐる。

此外に精華^マ学堂なるものが、西直門より汽車で十数分の処にある。けれども之は耶蘇教会に関係なく、米国の賠償金に依る教育事業であるから、之は茲に上げぬことにした [.] 歐美同学会

は石達子廟にあつて歐美留学出身者の倶楽部図書館を經營してゐる。

二、北京に於けるミツシヨンスクール

【滙文学校】今から一千八百八十三年にローリー氏が建てたもので、建設当時は何でも三四人しか生徒がなかつたそうである、メソジスト教会の学校である。今は滙文中学滙文小学などあつて、ローリー氏が名誉校長である、滙文小学は十三校もあり、中学には四百八十名の生徒を容れ、専門部には三百名の学生を有する、女子教育の為に慕貞女学校がある、校庭は二十萬坪を有する実に広大なもので、孝順胡同を東に曲ればそこが滙文学校である。

【燕京大学】崇文門内裡東城根にある、公理教会、美以美会、長老会が連合して設立せる綜合大学である、萬壽山への途中海淀に新校舍建設中で、出来上つたら清華学校よりも立派だらうといふ。其敷地は陳樹藩が割安に買ったもので三十二萬坪あつて、支那式瓦屋根の洋館の校舍を建築せんとしてゐる、その予算一千万弗。燕京大学女校といふのが燈市口同福夾道にある。男女学生併せて約五百名、北大の学生等よりも勉強すると聞くが果してどうか。

【崇徳学校】聖公会の学校で絨線胡同にある、小学と中学の中間位の程度である。聖公会の建設で生徒は四百二十名。

【長老会学校】安定門大街大三条胡同にあり、崇実中学校、崇実小学校〔、〕崇慈女学校などがある。

【貝満中学校】燈市口の公理会の中にある女学校で、約二百名の生徒がゐる。

其他中華教会、缸瓦市福音堂にも小学英学校が附属してゐる、公理会にも育英培元の兩小学があり、救世会にも小学校がある。

【英文学校】西城城塔寺の下にある、男女兩中学があつて学生は約八百名倫敦会の經營である。

三、北京に於ける天主教

一千六百一年ゼスイツト派のマテオリツチが来京して布教を始めた。乾隆帝の援助もあつて隆盛に向ひ、義和団の変には仏人二名殺害せられた。その賠償金に依つて大に伝道を擴張した。田地、借家を有して豊富たる財源を所有する。

【救世堂】順治門内の東側には最も古い羅馬天主教がある。信徒八千名を有し仏人祭司一名、支那人司祭伝道師十数名を有す。法文学堂、法漢学堂を附屬としてゐる。法文学堂は千九百一年六月の設立で仏人及支那人を教師となしてゐる。学生百五十名ある〔。〕法漢学堂は九百四年十月の創立で学生七十名ある。救世堂には毎日曜日午前八時、正午の兩回集合がある、四百名内外集る。

【天主教東堂】東交民巷にある。信徒八千五百名、宣教師法人一名、小学校を有する。仏人童女は支那病院に献身的看護をなしてゐる。

【天主教西堂】西華門外に在つて、中学校〔、〕伝道学校〔、〕法文学堂を經營してゐる。信徒一萬二千を有する、学校には教師として和蘭人が居る、ここに有名な李碼寶の墓があつて乾隆帝が建ててやつた立派な大理石の墓地がある。

【天主教北堂】東安市場北方にある、英人宣教師の布教せるもので、信徒四千を有する、天主教の事業は実に大である。

【聖心学院】三条胡同にあつて、英仏人司祭教師が教鞭を執つてゐる。

清水安三「支那伝道論」(『生命』第276号, 1923年12月5日) 6～21頁。

一、簡單なる基督教伝来史

景教の来唐 支那伝道の先駆は景教徒である。景教といふは、今日の支那語に書き直せば、やつぱり基督教と称すべきで、景も基も共に「キ」といふ音を持てる漢字なのである。が今日では普通、景教のことをネストリアンの場合にのみ用ゐて謂ふことになつてゐる。

ネストリアンといふは、紀元四二八年から四三一年にかけてコンスタンチノーブルに於ける波多力だった Nestorius を開祖とする基督教の一派である。エペソ会議 四三一年に於てアレキサンドリアのキリル一派のために、異端と看做されたるネストリアスは、十七人の高僧と共に、シリアに退いて教勢拡張を志した。ネストリアスの斯く排斥せられたる主なる理由は、彼等が聖母マリアを礼拝しなかつたからであつた。

シリアに退いた後と雖も、東羅馬皇帝の迫害止まずして、四八九年にはネストリアン派の根拠地だったエデツサの修道院は皇帝ジノーのために閉鎖せられた。ネストリアンは追はれ追はれて波斯に入ったのであるが、波斯皇帝ファイルスは大に之を優待し、保護した。これで漸く息をついて、教勢を印度支那方面に伸ばすに至つた。

六四二年回々教が勃興して、波斯王朝が顛覆するに至つたネストリアンは之を教敵に廻すだけの元気なく、反つてその信任を博し、擁護を蒙つて、總本山をバグダツドに移し、益々教勢を盛ならしめた。

これより先き、五〇五年梁武帝天監三年、始めて支那に来つたのであるが、惜しいことには支那の文献には、その記事がない。

唐の太宗、貞観九年、景教の僧阿羅本一波斯人が来朝した時は、皇帝太宗は彼を迎ふるに国賓を以てした。時の宰相房元齡をして西郊に迎接せしめたと謂ふ。大へんな騒ぎであつた。貞観十九年に至つて、太宗の命によって、太秦寺を長安市中義寧坊に建立し、僧二十一人を度して、遂に景教の公許を得たのである。

彼は貞観九年から十九年まで、何をしてゐたかといふに、宮闕に入って、皇帝と道を談じたり、バイブルを漢訳して居つたものと見える。

阿羅本は鬚髯を削らなかつた外は、佛僧と異るところなく袈裟を着し、戒律を守り、儒者と同化して、祖先崇拜を尊び道士と同様、生を開き死を滅すと称し、只管他宗教と融合同化せと努めた。マクスミユラーに依れば、当時、阿羅本は佛僧の助けに依つて、バイブルを翻訳したものらしい。

高宗は太宗の像を景寺に安置せしめ、各州に景寺を建て、阿羅本を鎮国大法主となした。肅宗は景僧十七人を興慶宮に集めて、功德を施し、景教の新知識に依つて、学校、孤児院、病院などの社会事業を行はしめた。

景僧が中央亞細亞を渉り来つたものなれば、地理に明るいところから、朔方制度使郭子儀は景僧を幕中に入れて、參謀、通訳となした。伊斯、鞏斯僂の両僧は大いに用ゐられて功を立てた。景僧達はその得たる功禄を以て、寺院を建修したと謂はれて居る。景教流行の盛時には長安市中に四千の外人が居つたそうである。

加特力教の渡来 一二九二年元、世祖二十九年法王ニコラス四世が派遣したモンテコルビノは、印度から陸上、貿易隊商に加つて、安南を経て、支那に来つた。世祖は大に厚遇したのであるが、

唐朝以来残存せる景教徒に圧迫せられて安南に退いた。東羅馬の仇を支那で取られたわけである。安南に退いて、そこで教会を建設し、六千の信徒を得、五十人の児童を買収して孤児院を建てた。で、法王は更に七名の僧侶を派して、これを援助した結果千三百二十八年彼の死せる頃には已に三萬の信者を得てゐた。支那伝道に興味湧ける羅馬法王は、更にフランシスカン派の宣教師二十六人を派遣して、元の中原に布教せしめむとしたが、元朝の亡ぶるに至って、景、加兩教共に支那より跡を断つに至つた。元史に見ゆる也理可温はすなはち、羅馬より来朝せし僧侶を謂へるものであらう。

一五八二年明の萬曆十年ゼシユイツト派の利碼竇が渡来し広東より南昌、更らに北京に入り、大宮徐光啓に洗礼して、天文学、曆数を教授した。而して宣教師南懷仁は欽天副監に任命せられ、信望を広め得たのである。彼達は天文、曆数を伝授した上、兵器の製法までも教へ、何でもかんでも、ありきりの智能を絞り出して教化の手蔓となした。

ドミニカン派もまた支那伝道を開拓し、湯若望は多数の伝道師を指導して、やはり兵器製造、天文観測の副業を以て、専ら勢力拡張に従つた。ドミニカン派はフランシスカン派の南懷仁が欽天副監たるを嫉視して、清の康熙帝に提議して、フランシスカン派が利碼竇以来、祖先崇拜を行へるは、真正の教理に非らざるの故を以て、禁止せられんことを訴へた。康熙帝に依つて天下漸やく統一を全ふし、フランシスカン派は愈々発展せむとする矢先、このドミニカン派の陰謀に会して、大いに困憊せざるを得なかつた。羅馬法王もまた祖先崇拜を基督教義に違反するものと認めためたものであるから、康熙帝は容赦なく禁止命を布いた。雍正帝の時代にこれが勵行せられたるため、ドミニカン派も、フランシスカン派も、共に伝道難に陥つた。所謂藪をつゝいて蛇を出したのであつた。

希臘教の東漸 露国の東方侵入は一八六五年から八五年に亘る二十年間に於て、最も盛んであつた。康熙帝は愈々鉄火を以て見えむとするに至つたのであるが、南懷仁の尽力に依つて、一六八九年ネルチンスク条約を結んで、境界を規定し、彼我共に相侵すなきことを契つた。帝は其功を賞して康熙二十一年天主教公許の詔命を發した。一七二七年カザリン女帝は彼得大帝の鴻業完成を期して、使節ウラチラウイツチを北京に派遣して、ネルチンスク条約の改正を促し、この条約に依つて、北京に一寺院の建立が許され、六名の僧侶が滞京することになつた。これを恰克図条約といふのである。

新教伝来 一八〇七年支那に始めて新教が伝つた。即ちロンドン教会のロバート、モリソンが広東に来着したのはこの年の九月七日であつた。モリソンは燃上れる希望を抱いて支那伝道に門立たむとしたのであるが、東印度会社の便船はその上陸を拒んだ。止むなく彼は米国に渡航し、米国から支那に渡ることに定めた。一八〇七年一月三十一日住みなれた祖国英国をさやうならして、七十八日の後、漸やく米国紐育に到つた。意外にも紐育と費府の人達はモリソンの壯図を理解し、大層親切に之を迎送した。彼は再び無名の帆船に搭じて東洋新教開拓の祖たるべく米大陸を舟出した。

紐育を出で、已に四ヶ月、九月七日広東に到着。米国訪問の際国務卿ジェムス、マチソンより受けたる紹介状を以て、米人ジョージ、スタウトン氏を訪れ、その支那知識に指導せられて、先づ支那人教師を雇ひ、一八一四年新約全書の漢訳を完成した。マラツカに英華学院を設け、支那語辞典を拵え上げた。

モリソンを援助すべく、ミルネ氏来りたるも疫病に犯されて死し、モリソン夫人も設備なき生活に耐えずして逝き、第二の夫人も病没した。再度までも愛するものに先立たれ乍ら、猶も孤軍奮闘し、一八三四年遂に彼もまた天上の人となった。享年僅に四十二。彼は何んでも生前一名だかの支那人に洗礼したそうである。しかし、その事業は永遠に記憶せられる、であらう。

一八三〇年米国宣教師ブリッチマン、アピールの二氏来つて、モリソンと共力し、一八三三年米人ウエルス、ウイリアムス氏来つて宣教し、続いてピーター、パーカー氏来つて病院を建て、メデイカル、ミッションの魁をなした。その後、ブーン監督、ウイリアム、スピーアー、ウイリアムテラー達の来支するに及んで、教勢は殆んど全国的に拡り始めた。

以上は最も簡単に述べた支那基督教史である。今より少しく批判を試みて見る。

二、景教は支那に何を寄与したか

景教流行中国碑 兎も角もあれ程に旺んだつた景教なるものが、今日の支那に何を残して居るか、只明末熹宗皇帝の天啓年間に発掘せられたる景教流行中国碑、あの高さ一丈幅五尺、厚一尺の二つに折れた一塊の石片が、景教の残したる只一つの古影であらうか。無論その碑は研究者の貴ぶ考古史料であるに相違ない。けれども只それ丈けが景教の現支那に遺せる貢献であらうか。生ける景教徒は支那中に、今は一人半名もないのである。佛教の如きは、何といつても今猶、幾千の寺院と僧侶を有つて居る。何故景教のみがかくの如くもろく亡んだのであらう。私共は景教を研究して、そこに他山の石として、前轍と顧みるものがあるならば、それを思ひ当って見たい。

妥協と同化 景教は余りに妥協、融合、同化に勤めた。佛僧に真似て、袈裟を着て見たり、寺院に住んで、佛僧と起臥を等うしたものであるから、支那人達は、景教を佛教の一派位に取つたのである。また支那国民性に顧みて、祖先の霊を祀って、孟蘭盆を始めたり、道士に同化して、生を開き死を滅する道を宣べた。

景教碑の意匠を見ると、そこには白雲鬚きて、下に蓮花咲き、その上に十字架が立つてゐる。この彫刻を見ても、如何に他教と同化せむと欲したるか、解るのである。白雲は道教蓮花は佛教を意味する。それはいふまでもないことである。

妥協同化することは、伝道を容易にする鋤の入れ易い所がある。けれども長い年月の眼より見るときは、妥協同化は必ずしも上々の策ではない。人間は余りに小捌口ではいけない。一旦は愚策と見えても、妥協を發して戦ひ、同化を排して苦しむところに、強い力が植ゑ着けられるのである。

景教が好敵手たるべき回教と妥協し、支那に来たことは、儒佛、道の何れにも同化し基督教らしい特長を失ひたるは、景教を死滅に導いたる最も大なる原因ではあるまいか。

政権との結合 太宗に取り入つて、闕に入り、王威に依つて、寺も建築したる阿羅本の行動は、全々御用宗教者である。また高宗の命ずるまゝに太宗の像を景寺に安置し、各地に寺院を建て、貰ふた。これでは景教は皇帝の祀霊の爲めに用ゐらるゝ宗教に外ない。

肅宗は興慶宮に十七名の景僧を集めて、功德を施した。これでは全く皇帝の食客に外ならぬ。朔方制度使郭子儀は景僧を幕中に入れて夷狄の探偵に用ゐた。愈々景僧は使用人の位置に陥つたものである。それでもこの調子が長く続けばいゝのであるが、元の滅亡する頃には、全く困憊して、終に絶滅せざるを得なくなった。

俗権に凭つて、伝道するものは、俗権と共に盛衰するに相違ない。今日と雖も政府の補助を信

頼して事業せるものは、政府の方針次第で事業中止の運命に陥らねばならぬ。景教のこと豈昔日の事ならむやである。

微力なる背景 何といつても、景教の背景は余りに力少かった。曾てはアンテオケを追はれ、シリアに遁れ、流離轉々、漸く回教の援助に依つて、息づいたものに外ならない。景僧達の背後には経済的にも、勢力としても極微なるものしかなかつたわけである。裸一貫支那に飛び込んだる最僧は、全く支那の食客であつた。軽視もされやうではないか。また政権にもすがり着きたかつたらうではないか。

舒元興が重巖寺碑に「合天下三夷寺不足当釈寺小邑数」といつてゐる。これは悪口でも何でも無い、事実だつたのであらう。景教の寺院は、佛寺の田舎寺にも及ばなかつたであらう。之を以てしても、如何に景僧が微力であつたかが解る。這ういふ風に微力であるから、融合だの同化だの妥協だのをやることになつたのである。

経済的に微力なる我が組合教会を背景とする私達に取つて景教徒の心持はよく解る。

貧弱なる哲学 使徒行伝十七章に、パウロが雅典に於て得たる経験を読むのであるが、パウロ、達の彼も、希臘の本場に乘込んで、今更らの如くだちだちたらざるを得なかつた。恰かもその如く、景教は支那に来て、自らの頭具合がに余に貧弱なるに思ひ當つたに相違ない。熟成せる唐の文化に接して、それにも同化、あれにも融合せねばならない如く見えたのである。もうそこに確信もなく、伝ふべき何物もなかつたに違いない。

資治通鑑に「有僧西域来、善呪術、能令人立死、復呪蘇」とある。これに見れば、景教はたゞ迷信に過ぎないものと看做されてゐたらしい。今日、西洋人達は、奇蹟と復活を奇術の如く説いて、多数支那人を教へてゐる。今日の支那基督教が果して千年後に残るであらうか。私達は憂ふる。外国との為替が杜絶するに至らば百年を出でずして、支那基督教は支那から後を没しはせぬかと。今日の如くんば、或は全くそうでないかと信ぜられる。

景教の貢献 景教が唐の文化にどれだけ寄与したか。或はそれは数へたてる程のものでないかも知れぬ。けれども景教それ自らがそうであつたにもせよ、景教が佛教を通じて、影響を与ふる処、或は少くなかつたと思ふ。佛教は景教の影響を受け祖先崇拜を行ひ、肉食妻帯を行ふ等、今日までも景僧の感化を持つてゐる。故に景教死滅して今猶ほ、佛教の裡に、生きてゐる。入唐の邦僧、わけても空海思想の如きは景教の思想を融和採用するところ甚だ多いと謂ふではないか。

ナベル氏のいふところに依れば、景教の末裔は多分回教の中に混滅して了ふたとのことである。二千六百萬の支那回教徒の中には景教の血が遺つて居るかも知れぬ。さもあらばこそ支那回教は他地方回教と少々風変りのところもあり、また教勢もあなどり難いものがある。

三、支那を苦しめる教権、教禍

悪魔の宗教 「先づ説教せよ、それで行かざれば劍を抜け」これがポルトガル、西班牙、和蘭、英吉利等の対支政策だつた。そうでないと云つても事実が証明してゐる。バイブルを抱いて来させるものと、劍を佩いて来れるものとは何の交渉もなく、別々にやつて来たんだと、辯解しても、支那人にとっては、詮索するよりも、想像することに依つて、同じ国人である限り、一味同腹と見る。又見られても仕方がない。

基督教の名に於てどんなに多くの罪惡が行はれたるか。如何に支那を苦しめ、また苦しめつゝあるか。

私達は日本史を翻いて、天草の乱を思ふ時に、基督教徒に同情するの余り、磔殺虐殺せし日本人を呪咀するものであつた。然るに支那の伝道史を読んで今更の如くに、やつつけて了ふてよかつたと思ふのである。当時の基督教は確かに悪魔の使者であつた。一体基督教の宣伝者は強国文化の国に入ると、甚だよい、貴い事業のみをする。けれども弱国文化の国に入ると、反つて無茶をする傾がある。そこのところを余程気をつけぬと知らず知らず悪魔の使者振を發揮するやうだ。

布教権問題 一八四四年道光二四年英佛は阿片戦争に依つて、開埠されたる五港に於て、教会、病院、学校を建設する権利を得た。

一八五八年一咸豊八年英佛聯合軍は白河砲撃後天津に於て、数回に渉る条約により強固なる布教権を獲得した。

一八六〇年英佛聯合軍の白河砲撃後二年、北京侵入によつて、再び条約を締結した。その条約の第八条に

「清国の宗教は、新教又は羅馬加特力教に関せず、共に徳行の実習を教へ、己の欲する所を人に爲すべきを教ゆるものなり。故に其宣教者は清国官吏の保護を受くべき権利を有す又平和に其職を勉め、法律に違反せざるものは決して処罰干渉せらるゝことなかるべし」とある。

援目なき露国は、黙する筈なく

「支那政府は伝道師は紳士にして何等物質的利益を得んとするものにあらざると認め、其支那臣民間に宗教を宣布するを許し、且つ支那内地に於ける伝道を防げざるべし。開市場を離れむとする伝道師は露国官憲署名の旅券を交附せらるべし」

この条約から旅行券の発行が始り、保護権が出ることになった。佛国も同様更に内地伝道の事項を約結した。

「現今、凡て基督教会員は其身体財産及宗教上の慣例を自由に執行するに關して、完全なる保護を受くべく又制規の旅券を以て公然内地に旅行する教師には有効なる保護を與へ、清人の基督教に改宗せるものは、其教の典例に従ふ権利あることは既に公認せられある所なれば、清国官憲は此権利に關しては如何なる障碍をもなす事なく、又従来政府の命令に依り、清国内地に於て基督教に反対なる記述宣言及印刷物等は清帝国の各地に渉りて全廢す」

この条約に依つて、支那人は反基督教宣伝の自由を有せぬわけである。

教匪と教禍 土匪、馬賊達は官兵に追撃せらるれば必ず宣教師、教会に投ずる。そうすれば、官憲は如何ともすることができない。宣教師達は七度の七十倍まで許すものであるから、幾度わるいことをやっても、逃げて来れば之を保護する。斯う云ふことを繰返へして居るものであるから、教匪を憎むの余り、教会堂を焼き拂ふ。そこに面倒な外国との交渉が起つて、賠償問題が持上る。同治、光緒時代には一年に十何度といふ程に問題が起つて居る。

洪秀全、謂ふところの長髮賊は教匪の最も大なるものであつた。最初洪秀全が事を挙ぐるや、英国は支那に革命が起つたと考へ、ゴルドン將軍を遣したのである。然るに真面目の將軍ゴルドンは反つて、洪秀全を撃つて、清を援けた。清を懐柔する政策に変化したのだとはいふものゝ、如何に洪秀全達が援助するに足らぬ匪賊であつたかゝ解る。

教匪とまで行かずとも、教権を楯に支那人教徒と支那国民との間に、続々として問題が起つた。その都度、對外問題を惹起して結極は教民の方が勝つといふ具合で、人心は日々教民を憎悪し、これを教禍と稱したのである。

拳匪と賠償 宣教師と教民との横暴は日を追ふて激烈になり、心あるものは憤慨して居つたのであるが、折柄拳匪運動が起つたので、迷信とは思ひ乍らも痛快に感ぜざるを得なかつた。思ふに拳匪の如き迷信が擡頭するまでには、教民に対する反感が十分に醗酵して居つたに相違ない。

一八九九——一九〇〇年、光緒十五年、六年の拳匪運動は山東から起つた迷信運動に外なかつたが、当時、康有爲等の開国進取の思想に対し、反動として清の大官の榮禄剛毅の爲めに煽動された気味があつた。それ故に大官大臣にして死罪、流罪に処せられたるものも多かつたのである。この拳匪の爲に天王教四十四名、新教百八十六名の宣教師、支那教民多数が殺害されたのである。教堂、学校は焼かれ、一時は見るも痛しいものがあつた。けれども思ひ方に依つては、自ら蒔いた種を刈った丈けのことで、そう献身だの十字架だのを持出してこの場合を説明され度くない。殺された人達の中には多分善良なる宣教師もあつたらう。けれども基督教の名に於てなされたる教禍の責任は無論共同責任である。こゝに於て矢張り自ら蒔いた種を刈取つたことである。

拳匪のために各国の取り得たる賠償金は四億五千萬兩で四朱の利付であるから九億八千二百萬兩である。米国はそれを投出して、精華学校を北京西郊風景妙趣の地に建設した。

教会の取つた賠償は千五百二十五萬一千二百八十一兩三仙七分であつた。各国宣教師はこの賠償で以て、学校、教会を建設したのである。今日支那各地に在る目ぼしい教会堂、校舍はその時建設したもので、廣大なる土地はその際占領せるものである。でまあ謂はゞ賠償成金であつたのである。当時各地に入り込んでゐた日本人商舖でも賠償成金になつたものが澤山居る。一枚の硝子戸を破られて五萬圓をせしめたものもある。ところが南京に居留せし日本人某天主教信者は「君も損害高を訴へ出よ」と命ぜられて、三錢五厘と書いてやつたそうである。聞けば流弾一発、屋根裏の硝子を貫いたからだ。宣教師たる者よ、おゝ、この邦人某の爪の垢でも煎じて飲むがいい。

今日の支那は何故に混乱せるか、外にも多々理由はある。が経済的枯渴が支那を二進も三進も動かなくしたんである。然らば拳匪賠償金支拂による支那の財政難はその最も大なる理由であらねばなぬ。これを鼠を殺したのは猫で猫を貫つて来たのは茶目坊乃公である。即ち鼠を退治したのは乃公だと云ふ論法から行くと、支那の混乱は財政難で財政難は拳匪賠償の爲め拳匪は教民の横暴、教民の横暴は宣教師に責めあり [。] つまり支那を混乱に導いたものは宣教師なのである。まあ、それ程にいはなくても、若干はそうしたところがある。

過ぎ去つたことは怎うもしやうがない。今からでもよい、宣教師達は悪魔の手から離れて、国家の権利を振り廻すことなく、只管神の保護だけに信賴して伝道にいそしむがよい。カイザルのものはカイザルに納めて、教民の心持を純一ならしむるがよい。然らざれば、必ずや第二回のボクサー、ムーブメントが起るであらう。そして今度はそう澤山の償金にあり着けぬ筈である。もう支那はよっぽど貧乏してるから。

四、支那基督教の新傾向

現状と統計 入つて居る教派は総じて五十八派で、西洋人の数が六千五百六十二名で其中牧師が千二百九十九名、外人医師が四百五十七名、其他は教員、看護婦等である其中男子は三八パーセントであるから、婦人の方が半以上を占めてる。

支那人教職員は二萬四千六百二十七名で、支那人牧師は一千零五十八名居る。伝道師は一萬一千一百八十七名、教員は一萬零八百七十七名居る。支那人医師は四百六十二名である。この教職員

は男子は七六パーセントであるから、婦人は半数に達しない。

外人宣教師の駐在せる総会堂が一千零十六個、正式教堂が六千三百七十四である。布教地は八千八百三十一地方に分けられ受洗信徒三十四萬四千九百七十四名、日曜学校生徒二十二萬零八百八十三名ある。

国民学校学生は十五万こぼれる七百七十九名あつて、高等小学校には三万二千八百二十九名の生徒が居る。中学校学生は一萬五千二百十三名、総計十九萬八千八百二十一名の生徒を教育して居る〔。〕病院は三百二十三個あつて、施薬所は二百三十四個入院ベッド数が一萬六千七百三十個備り、一年間に入院するもの十四萬四千四百三十七名ある。

これを先づ具体化すると先づ京都の都市が支那基督教徒、学生に依つて形造られる訳である。
(一九二二年の統計)

時代の傾向 一九一九年民国八年謂ふところの五四運動が起つてこの方、支那は偶像破壊、思想革命の時代が到来した。自由を追求するの思想が支那青年を燃上らしめた。そうして民衆運動の烽火はあちこちに上り、合理的な排外運動から社会運動に進み、遂には教会を置き去りにして、益々左傾するの勢に至った。

教会は排日のみ没頭して居る。世界が国際的精神に甦らんとしつゝあるにも拘らず、無我無心に排日運動に夜も日もない勢である。世界日曜学校大会にすら、誰一人参加しやうとせぬ。而もそれが支那新人達の思想に共鳴せるかといふに反つて新しい青年思想家は笑つて居る。「新青年達が世界的精神に立歸つた頃基督教徒は排日をし出した」と陳獨秀の如きは「吃教人多、可是信教人没有」といつて居る。「信者はもう一度バイブルを読み直して見るがよい。聖書の何処に排日のテキストがある？」とすらいつて居る。而も陳獨秀は支那黎明運動の先駆なのである。

されば、あれだけ熱心に、救国団等を作って排日に働いて居るに拘らず、一九二二年五月反基督教運動すら起つたのである。一体支那の基督教は今少し、基督の精神に立還へる必要がある。世におもねる必要も何もない。基督の聖旨に適へると信ぜば猛進するがよい。右顧左盼あまりに利口に活動せむと欲するから、遂には見透かされて、内外に信を失ふに到るのである。世論よりも一步出で、世を指導する丈の概が足らぬではないかと思ふ。

自治運動と新人 一九一九年の五四運動は支那基督教一部の青年牧師を動かし、一九二二年の反基督教運動は反つて、基督教徒の反省を促した。

光緒三十年来俞牧宗周爰等によって、企てられたる教会自立運動は一九二〇年七月、全国自立会議を開くに至つた。外人に依頼するところ多き支那人達が自治独立に賛成しやう筈なく、これまで只不平分子の運動に過ぎなつたのであるが、一九二〇年の大会は未曾有の盛会にて十六省四十五県百二十名の代表が集つたといふことである。時代の勢は決して軽視することができない。

このことを見て驚いたのは外国宣教師で「やりにくゝなつた」と歎ずるものも、「漸く物になりそうな」と歡ぶものもあるといふ次第で悲喜交々といふ有様であつた。

この二年間に、独立を宣告せる教会百二十余に及び続々この傾向を示して居る。

嘗ては扱ひにくゝなるからとて、牧師伝道師には英語を教へなかつたものである。嘗ては理事の過半数は外人でやつた〔。〕今日では外人は十人に一名位の割合で、役人に選ばれ、宣教師は漸くにして、祝禱をするの余地を与へられて、閉会の前に一寸働くだけのことである。而かも大

勢なれば如何ともすることができないのである。

新人牧師が各地に出で、批判的立場に立ち、ぐんぐんやつのけるのであるから、宣教師の骨の折れやうたら、この二三年、思ひ半ばに過ぎぬであらう。

が併し、眠れるものが、目醒むる時が来たのである。決して心配すべきではあるまい。まだこれからである。今から驚くやうでは仕様がな。

五、対支文化政策私見

純真なる態度 政策を離れて支那人の為に尽す、それが最も純なる精神である。若しか政策といふ言葉を用ゐたいならば、神の国の対支政策から支那宣教をなすべきで、決して日本の国の対支政策に用ゐてはならぬ。

もう教権だのを振り廻はす時代は過ぎた。国家の威力を笠に着て、支那人をとつちめる時代ではない。飽くまで、只神のみを後援として支那伝道をなすべきである。

この点に於て私達日本人が百年後れて支那伝道に参加し得たことを欣ばざるを得ない。私達には拳匪の償金に依つて建立せる大会堂はないかも知れぬ。けれども曾て悪魔の手先になったことは未だないのである。私達こそ純一なる精神に固執して支那の為に働くべきである。

幸に支那を挙げて、排日の気風に充ちて居る。何たる逆境の恩籠が我等を待てる！ 自からにして私達は謙譲の精神を有し得る。困難と云へば、それは私達の支那伝道である。けれども困難であればこそ、そこに煉達の道がある。やはらかい土壤にぬくぬくと生えた木は一夜の風に根こぎにされて了ふではないか。私達の事業こそ、どうやら本物になりそうではあるまいか。それが気焰たらずんば幸であると思ふ。

妥協同化は禁物 伝道の効果を急ぐ、そこに妥協がある。景僧はそれを知って居る。景僧に限らず、凡そ支那基督教徒は妥協好きである。畜妾し居る人達は妾を必らずしも止めなくつても信者になれると宣言して見たり、男女七歳不同席といふ支那風俗に同化して、会堂に男女を仕切る壁を拵へたり、種々の細工方便を爲す。これは甚だ賢明な方法に似て其實不然、反つて基督教の精神はこの一角から壊れるのである。

ロックフェラーの病院でもそうである。ベリーベストを標語として建設した。あの工賃の安価な支那に在って六百萬弗用ゐて、大理石輝く王宮の如き病院を立てた。そうすることが支那人の国民性と合致同化すると思つとるのである。東京新宿なる慶応義塾大学病院は六十萬弗で建てたものだそうだがロックフェラー病院の一割の費用であるが、その規模は数倍である。同化するときに、必らず、最善が失はれる。真理に二つはない。聖旨は只一つである。同化せむと欲する処に、妥協する心が動き、敗北の端を開くのである。

日本が將になさんとする事業も決して同化する必要を求むることなく、百年の後の勝利を期して思ふがまゝに最高理想を実現するがよい。

支那人に導かれるのでなく、導く立場にあり乍ら、同化するとは何たる不見識なことであらう。我等は功を急がず、自重してかゝる方が、健全なる態度であると思ふ。

金よりも人 日本人は金の方を先に集める。金さへあれば何でも出来ると考へる。けれども金だけでは何も出来ない到るところに同仁病院を建てるが其評判は何うだ、醫師は小金を溜めれば直ぐ歸って仕舞ふ。支那語一つ研究しやうとはせぬ。それで、何が出来やう。

支那各地を見歩いて、大学、病院、教会の建築を見て来る。一寸見ても米国は金持だとか、

英国は何程出資したかとか賞讃することが出来るであらう。けれどもそれ程の事業が出来上るまでに、粉骨碎身した人物のことは、余程の人でないと思通すことが出来ぬ。見よ何れの大学、病院にも、目に見えぬ血みどろの人柱が立ってるではないか。

北京大学はローリー博士の雙肩の上に建てられてゐる。今より四十余年前、二十名の生徒を辛じて集めて開校したローリー夫妻の生涯をぬきにして、北京大学の今日あるを想像できない。武昌のブーン、上海のスペアー、あゝ金ばかりで建ったのではない。貴い人柱なくして支那伝道は成功するものでない。

日支親善と伝道 私達は国家を超越して支那の爲めに支那人伝道を為すのである。それは祖国日本の事は忘れむと欲して忘れ得ぬ。けれども祖国の爲めには、わが友がやって呉れる。七千萬もの人間の中一人や二人国家を忘れてもいゝ筈である。祖国のことは友達に委した。そうして私達は支那の爲めに生涯を投げこむ。

で私達の教へ子が猛烈な排日者になったからつて裏切られたなど、思ふべきでない。ことに依つたら排日する程の奴も出ていゝわけである。

私達は日本が侵略政策に失敗した後に支那に来たことを、侵略の先走りに来た西洋の宣教師達よりも幸だつたと思ふ。であるから猶更ら顔を更へた侵略主義にならぬやう用慎すべきである。

こういふ風な超国家的な日本人が一人でも支那のために働くといふことが、傍らから見て、それがその実は本当の親善になるんたといふことならば、私達とても不親善を願つてゐるわけでないから、そうであつても差支へないわけである。無論そうでなくつてもいゝわけである。

〈1924年〉33歳

清水安三「五四運動史論」〔『北京週報』第111号、1924年5月4日〕4～8頁。

【本月本日】は謂ふ所の「五四運動」記念日である。すなはち恰も六週年に当たる。定めて諸校諸所に記念講演会なるものが開催せられるであらう。我等は支那近代史に二大排外運動の事実を認める。一は一九〇二年—光緒二十六年の拳匪運動であつて、他は本文の論ぜむと欲する五四運動である。

拳匪運動と五四運動とは丸で違つた運動であるにも拘らず、何れも排外運動であることに於て其軌を一にして居る。先づその全然相異なる点を述ぶるならば〔、〕(一)拳匪運動は守旧思想家の運動であつて、五四運動は進歩思想者の運動であることだ。されば拳匪運動は頑冥なる反動保守思想家迷信者流の排外運動に外ならなかつた。而して只徒らに在支紅髯高鼻の猿面冠者をぶち殺して痛快がつたに過ぎなかつた。これに反して五四運動は排日運動でな怪体なる出発を為せしにも拘らず、自転して黎明運動となり、再転して文化運動と化し、少からず国民を覚醒目覚せしむるところにあつた。

(二)拳匪運動は排日要素が極めて濃厚に非らざる、排外運動でありしにも拘らず、大日本帝国は、各国聯合軍に仲間入り。終始勇敢なる武者振を以て白色戦友を驚嘆せしめたる結果、庚子賠償金の一口を当然お預りすることとなつた。縁もゆかりも無い臨城事件にすら抗議の為に日本を誘ふを忘れなかつた各国は五四運動の排外に対して決して各国聯合軍を組織しては呉れなかつたのだ。のみならず排日運動のそこ此処に点々煽動の跡方すら伺はるゝのであつた。

(四)拳匪運動は四億五千万兩の金貨計算に依る賠償金を関税塩税を担保として、三十九年間に支

払ふといふ最も苛酷なる結果を齎らした。然る五四運動は其結果として庚子賠償金退款の氣運を醞醞せしめた。何といふ皮肉な対称であらう。

昨年永井柳太郎氏は「現支那は攘夷愛国時代にある」と言つた。長谷川萬次郎氏は「支那が一階級としてゐる時代愛国運動に熱することは、別に不思議な現象ではない。」とか何とか言つた。其処で日本維新に於ける攘夷運動を一瞥するであらう。明治維新に際して「大多数の大名及び皇室は、熱心に鎖国攘夷を主張し外国に対し、如何なる讓歩をも為すことをも絶対に否認したのである。」「攘夷党開国党及び王政復古党等の幕府反対党は勿論佐幕党の人々に至るまで、悉く外国に対して日本の独立を保持せんが為めには何事を棄てても、国政を統一することが焦眉の急務であることを意識して居つた。」さればこそ日本五十年の歴史は、幾度か国歩難国難來に会し乍らも、兎も角も国運を今日の地位にまで漕着けさせたのである。言を換へればすなはち、日本は虎視眈々たる列強に刺撃せられて、案外迅速に纏つたのである。この経緯を有せる我等は五四運動如き攘夷運動にすら猶且つ理解を持たむと欲する。然るに五四運動の収穫は如何 [。] 女の髪をざん切りにちよん切つて幾人かの断髮美人を製造したると、愛国帽を流行せしめたるに過ぎないではないか。

日本民権發達史は語つて居る [。]「勿論国内統一の方法に就いては各自意見を異にし輿論頗る区々であつた。這是彼等の知識、感情、野心等の相違に基く自然の数である。然し国内統一と言ふ急務の為に此等区々たる意見の相違は自然に調和され彼等は協力一致 [、] 如何にして国内を統一すべきかについて計画を廻らしたのである。」支那の若き愛国者達は以て如何と為す。対外的にのみ愛国に目醒め、対内的に全然無関心なる吾等の民衆運動は、益々国を亡ぼすものではあるまいか。既に学閥相争ひ、思想相對峙し、軍事相争覇する。全くのこと乱七八遭ではないか。これ丈けの言葉を前置いて五四運動を綴らむと欲する。

【運動の原因】を叙する為には山東問題から筆を起さねばならぬ。一八九八年一清光緒二十四年山東曹州府で一独逸宣教師が殺害された。独逸は兵艦を送つて山東の膠州湾を占領し、青島を租借地と為し、礦山を開き鐵道を敷いた。一九一四年一民国三年日本大隈内閣は歐涉大戰に参加して、膠州湾から独逸人とその軍隊を追払ふた。一九一五年一民国四年五月七日最後の通牒を用ゐて二十一箇条を要求した。当時陸徵祥は外交総長曹汝霖は外交次長陸宗輿は駐日公使、袁世凱は大總統であつた。一九一八年民国七年九月二十八日清順高徐二鐵道の借款契約が成立した。同年十一月十一日歐洲平和克服。一九一八年一月十八日國は巴里ベルサイユ宮に於て平和會議を開いた。陸徵祥顧維鈞王正廷魏辰組等が支那の代表であつた。米大統領ウイルソンの十四條提案は民族自決の思想を最も支那青年に感ぜしめた。支那代表は二十一個條は強迫に依るものなれば無効であると主張した。四月十七日米國代表が調停して英米日佛伊の五國共管説を主張したるも支那代表は全然反対した。そこで英米佛三國代表は一九一五年五月二十五日締結の日支協約を以て日支の間に解決することに決定。そこで支那代表は之にサイン批准せず青年國民は一九一九年五月四日の所謂五四運動を捲起した。実に五四運動の正面の原因は山東問題にあつたのである。

大正八年中央公論吉野作造博士の時評「支那に於ける排日事件」の裡に、「今度の運動は世間の伝ふるが如く、林長民の一派が煽動したものであるかも知れない。梁士詒の一派乃至在留英米人の助勢もあつたらう。子輩は此等の点に関する報道を余りに誇大に過ぐると認めるものであるけれど、又全然打ち消さうとするものでもない。」と書いてある。この短い言葉の中に、二種

の排日原因が表はれて居る。一は支那政治家の一派、他は在支英米人である。

民国六年支那の欧洲宣戦以来日本は、参戦借款なる名目の下に、段祺瑞に向つて莫大なる借款を爲した。直接その衝に当つたるものは曹汝霖陸宗輿章宗祥であつた。凡て借款にはかなりの手数料が分配せられるものであるから、彼等が決して私腹を肥さなかつたと言明するにも拘らず、疑惑はその新築せられ行く宏壮なる邸宅等に注がれた。この発財の政治家に対して、度外せられたる材長民、梁啓超、梁士詒、熊希齡等は、この時こそと排日を掲げて立つたと謂はれて居る。本文の記者は疑ふことが何よりも嫌ひであるから、多分謠言であつたらうと存ずる。

在支英米宣教師の煽動も伝はつてゐる。宣教師団なるものは日本に居れば心から日本眞負、支那へ来れば支那ビイキとなる。それは宣教師らしい心理から考へて斯くあるべきである。況んや尤も自国のやつたことは柵に上げてだが、日本の支那に対する仕打には憤慨して居つたらうではないか。而もデモクラシイの爲めの宣戦と称して、大学生だらうが、可愛い妻持つ若き夫だらうが戦場へと志願した欧米の当時の空気である。支那の若き宣教師からも百何名か出征者を輩出して居る。かてて加て支那に居れば十日や二十日は欧米思潮から遅れるものである。本国では国際主義だの平和克服の思想気分が漲つてゐても、支那の宣教師にはまだびつたりせぬで戦時気分その儘で、排日運動を煽動する。煽動せないまでも同情することになつたのであらう。彼等の信者の中にもライスクリスチャンいふのが多くゐて宣教師の喜びそうなことと考へてやる奴も居らう。無論中には武昌ブーン大学の学生の如くアツプレエイトして呉れるだらう位に早合点して排日運動に奔走し、遂には全部退校停学を命ぜられたものも居る。それ等の学生は焼糞で、一段と排日に熱すといふ塩梅で、つまり迫害は往々にして人を熱狂せしむと謂ふから、結果はやつぱり煽動したと同然、否それ以上なのであつた。

【運動の経過】を述べて、五四運動史と爲すであらう。一九一九年五月三日北京大学で緊急会議を開いて、翌四日午前天安門外に北京学生全部集合することを決議した。明くれば四日午前北京高等専門学校合計十三校学生代表は法政専門学校で会議を開き、(一)内外に通電して山東問題を力争すること、(二)各地国民を覚醒すること、(三)北京学生聯合会の組織、(四)本日午後示威運動を爲す為、午後一時半十三校学生全部集合、各自白旗を携帯のこと……等の数次を議決した。果然その日の午後は未だ一時を打たざるに無数の学生はさしにも広い天安門外を満たした。天安門是北京宮殿の真正面にあつてセピアの壁に瑠璃瓦び輝く宮殿を、間近かに見る謂はば、二重橋前に相等する [。] 日比谷公園とは呼ばぬが中央公園がある。少し離れて矢張停車場もある。

支那開關以来の示威運動ではあるが景気旺盛なれども秩序整然としてゐる。本文の記者は業と和服に袴を穿つて、コダツクを携へ、会場の片隅に参観者として佇んで居つた。「誅売国奴□□」「国民応当判決国賊」「還我青島」「取消二十一条」てな猛烈なる文字を書なぐつたる男女学生が来るは来る。見る見る内に満場。中央には壇が設けてある。交々立つてメガホーンを口に押し当て、叫んで居る。隅に立つてゐては薩張解らぬ依つて、演壇近くごち分けて進んで見たが別に危害を加えるものとなない [。] 只イベンエンと囁く声が耳に入る。馬鹿にエキサイトされたる演説も無事に、拝聴して了れば、群衆は四列行進を開始して米公使館に向つた。色々お世話になつて山東返還の勞を託せむ分別である。

恰も四時を過ぐる頃群衆は誰いふとなく「趙家楼へ」と叫び始め小走りになつた。何事が起るかと思つてると曹汝霖の邸宅は門を破られ、僅かではあつたが焼かれてゐた。幸にして若干の負

傷したるのみにて曹氏は脱出するを得、折悪しく来合はせたる章氏も微傷を受けたるのみにて避難するを得た。やがて京師警察總監呉炳湘が、暴拳を聞いて騎馬數十を従へて臨場忽にして群衆は四散した。警官の為に捕られしもの江紹原、楊振等三十二名。北大学生二十名、高師学生八名、工業専門学校学生二名〔、〕中国大学学生一名、滙文大学生一名であつた。

北京大学学生は帰校後生徒が二十名不足することに気がついて会議を開いて警察と交渉せむと欲したが校長蔡元培は之を制し、自ら出頭して学生の保釈を願つた。また四日夕林長民〔、〕王寵惠〔、〕王大燮等保釈の斡旋をなした〔。〕五日午前各校学生代表は総統教育部に決議文を送呈し、一方内外各地に通電を發して同盟罷工を始めた。益世報〔、〕晨報は学生運動に声援して警察を攻撃した〔。〕七日十三校々長相携へて警察に出頭するを得せしめた。北大の郭欽光なるものは憤慨の余吐血して氣死したと伝はつて居る。斯くて八日学生はストライキを打切り登校したのであるが、七日には先農壇に於て日貨の焼棄うい行ひ、毎日路傍演説を為して、街上日貨を積上げ之を焼棄てて得意顔に喝采して居つた。

忽にして天津に飛火して十二日中等学校以上河北公園で郭欽光追悼会を開き、之を烈士と称した。序に示威運動を開き上海では十一日学生聯合会を開き学生義勇隊の組織、愛国鼓吹団を編成した。南京では七日高等師範学校で国恥紀念会を開催して一大示威を行つた。杭州では十二日中等以上学生四千五百名集合して示威運動を行ひ濟南は十日二十一校五千余の学生生徒が示威運動を行つた。武漢は十四日から十八日まで示威運動を続けた。其他到る処一通りは之を行ふことを忘れなかつた。

東京留日学生は七日国恥紀念会を開き、北京の焼打を聞いて示威運動を行はむと欲したが、日本警察に禁止せられたるを以て支那公使館に殺到して抗議を要求したが、代理公使莊景珂の為に拒れ、且つ日本巡査と衝突して捕われたるもの三十余名を出した。

学生界の外に北京商務会は六日国民自決を決議し、日貨を買はず、中日商業絶交、売国奴制裁を宣言した。欧美同学会は巴里會議に簽字せざることを提唱した。

【六三紀念日】といふのがある。それは六月一日に東安市場で日貨を焼棄て、居る学生七名を軍警が拉し去つた^{ママ}に学生聯合会は三日間に互つて緊急會議を開き学生は五十名づゝ群を為して、国貨提唱日貨排斥の演説をなし、若しその裡一名でも拿捕せらるる時は五十名全部拿捕せられて行くことに決定した。かくて四日間に一千余名の学生が進んで拿捕せられた。六月五日には五千余名のものが捕はれた〔。〕警察側は大和殿前の大院子に、露天監獄を設けて収容し、到る処に軍警を配置した。専門学校長は政府に向つて保釈を要求する学生は各地に通電する実に喧騒を極めた。京師警察総司令の段芝貴は責を負ふて辭職し教育次長袁希濤も引責した。

六月四日午後北京政府の学生圧迫の報上海に達するや、伝单号外飛檄せられた〔。〕五日正午十二時モツプは淞滬警察署と衝突し各租界の商舖は閉鎖し門戸に「救国停市」、「營求停市」等と貼附し居つた。若干邦人経営の会社等襲撃せられたが大事を見ずして十一日漸くさしものボイコットも開市することになつた。実に五日より十一日に亘るボイコットの損害は、独り日本人商店のみに止らなかつた。この間電車は罷工し電話は通ぜず、印刷所罷工の為に新聞は出でず全く全市一時に死せるが如くに在つた。外人の娘達電話交換手を志願して漸く用を足したと謂はれてゐる。十二日曹陸章三氏の罷免命令の電報を受取り、全市は一斉に店を開き、学生は「謝謝商工界」「發皇民氣」の旗を□して示威運動を行つた。

日本から外遊して、欧米に到らないまでも遂ひ上海まで出掛けた丈で、已に日本に対する態度が狂ひを生ずる。すなはち日本を客観的に見る経験が、その狂ひを生ぜしむるのである。日本より未だ足一步を、出さざる人達は、日本人といふ意識がかつきりと頭に響いて居らぬ。日本全体をずっと眺めて見る経験に乏しい。況んや日本を批判し、日本に憤慨し、日本に愛想を吐かし、而して日本を祈るといふやうな切実なる経験を持ち難い。

されば井蛙の円天を礼賛する前に、井外に一步を踏出す必要がある。これと同様の見地に於て、日米問題をば、日米以外のわけて日米両者に関係深き支那より観察することは、最も興味あることではあるまいか。日米両者を冷然、判決することが、とても日本人に参考たると思考する。

二

支那が日米問題を観察する時に、自ら胸中万感交々来つて冷静ならしめんと欲して能はず、彼を思へば是を考へさせられ、実に今更ら情緒纏綿たるものあるを感ずる。

二十年に米国は支那人を、その国より排斥し駆逐した。この度の移民案にも無論支那人が含まれてゐる。日本の味はへる経験は支那人が、已に体験せるものである。健忘症に如何ばかり富めばとて、四億の支那人を侮辱したる彼の経験は今猶忘るゝところではない。

さればと言つて日本は米国が支那人の移民を排斥する如くその同様なる手段と方法に依つて支那人を日本から排斥せむとして居る。否して居る。手見せ金も二十円を五十円に、今は百円に吊上げて支那人の移住を防いで居るではないか。而も同色、同種の兄弟国民に対して、白人が黄人に対する態度を持すとは、何たることであるか。日本は到底も白色人に対抗できぬものであるから、黄色人に鬱憤を晴らし居るのではないか。外で癢に触つた亭主が家の女房に當り散らせると同然ではないか。

されば米国にも癢に触るが、日本にもあきれた物である。何れに組して、何れに向ふか甚だ迷はざるを得ぬ。この場合日支が協力して、米に反せば、自ら日支の問題を解決する様にも考へられる。しかし露西亜を東亜から追出したる日本のやり口に依ると、決して、尻馬に乗るを許さぬ。日米問題を今更の如く冷静に考へられぬも道理ではあるまいか。

三

日本人は潔癖なることに於て日本国民性の特長となしてゐる [。] 余に潔癖なるが故に、よく無いと称せられてゐる国民ではないか。然るに、日本自国の同色同種の東方国民に対する態度を変へず、仕打を改良せずして、日本国民たるもの何の顔あつて、日米問題を論ずることが能きやう。生れ乍の潔癖性は怎うする [。]

友人の放蕩を忠告に及ぶ前に、自分の放蕩を止むる位は当然のことである。当然のことをするのが正義、人道でありはせぬか。正義人道は決して奇抜なる複雑なる芸当ではない。自己を責むるには厳、他を容るゝに寛 [、] それは我等兼々の主張ではないか [。] わたくしは怎うしても日本人の排米思想を理解することが能きぬ。実際日本人の心事を疑ふ日本人が白人の国際帝国主義を隣国黄色民族に応用したるが為めに、今日の如く、日本は窮地に陥つたのではないか。その過去の苦い経験が未だ解らないのであるが。

四

わけて基督教徒の排米には共鳴できぬ。支那の基督教徒は日本に開かれたる SS 世界大会にすら代表を出さなかつた。宣教師すらも誰一人行かうと決心せなかつた。大阪に開催せられしオリ

ンピック大会ですら、支那人選手はやつて来たではないか [。] 基督教はマラソンよりも、世界的でないといふのか。

支那の基督教徒を笑へぬ。日本の基督教徒にして、排米に立ち止つて得意な人々が居る。全日本人が喧嘩腰になつても、基督教徒だけなりとも、爰をかみ砕いて居ればよいではないか。欧州大戦の折に、ロマンローラン一人が、非戦論を称した。私達が文学を通じて、宗教を求むる青年達の心理に理解が持てるのも、この辺にある。

排米だから主戦でないと仰有るか。戦はなくつとも、問題は自分の欠点を見付け、改革せばそれで充分ではないか。人を議する勿れといふではないか。私達は日米問題に憤慨する前に自らを耶蘇に従はしめむと願ふ。今頃旧約のテキスト等引ぱり出して排米をオーソライズされたかあない。

我等は米人悉くが、罪惡に陥つても荒々しい言葉を用ゐ度くない。「讐を返へすは我にあり」ではない。我等は恩讐の彼方に生きむと願ふ。

（一九二四・七・廿九）

清水安三「崇貞女学校の沿革」（『基督教世界』第2123号，1924年8月14日）5頁。

大正十年五月創立。日本帝国教育会が五千着の棉衣を北京で仕立て、旱災児童に施与しました。その折私共でお世話しまして銀五百八十四円、安く出来上りまして余剰が生じました。それを最も尽力して呉れました王洞陳君に進呈しやうと申出ましたが同君は固く辞して受けませぬ。そこへ私共が日華実業協会の災童収容所 famine relief work に働かせて頂いた報酬に貳百五拾円頂戴しました。それやこれやを合せて数百円になりました [。] 当時の北支旱災委員長中山龍次氏の御尽力で一平民教育機関を創設することになり北京朝陽門外太平倉を借受け、遂に本校を設立することになりました。

こればかりのお金で学校を建設するとは、一見乱暴な行動の様ですが、彼の芽生えたるはかりの雙葉を御覧下さい。あの白ばい幹と黄いなはつばで、怎うして大きくなれやう、どうして颶風に堪えられやう！と危ぶまれませう。けれども知らざる裡に何時しか摩天の大木となります。果してなくてはならぬものは与へられて満三年の後、今日は二千坪の敷地一万数千円の寄附金を得るに至りました。

幸に地方の信望も頗る厚く開校当時生徒募集の広告を出しましたぎり、その後一度も募集しません。一人でも退学者があらうものなら数名入学を希望し来るといふ状況です。歩軍統領衙門の参将高文豹氏の令嬢は三名までも他校から転学して本校に学んで居ります。私共は別にお金持や大官の子女が来たから喜ぶ訳ではありません。只この地方で最高官吏が子女を本校に転学せしむることを以て、本校の漸く、この地方に認められたことを知る、その意味に於て喜ぶのであります。

学校の教員も当初は、大層人選に困りまして、満足な先生が得られませんでしたが今日では学力、人物ともに小学校教員としてふさはしいもの、み揃ひまして、大層喜んで居ります。わけて今回京都同志社女学校卒業生なる侯玉香女士が赴任して教鞭をとることになりまして、同女士はこの後永く本校の為に尽力して下さる筈であります。数年前大連教会牧師磯部敏郎氏が、有志の出資を勧誘して同志社女学校へ数名の支那人女生徒を留学させましたが、侯女士はその一名で



あります。

只今は生徒七十五名，教員四名であります。私共は近い将来に於て，何とかして女子中学校を建設したいと思ひます。三年前に僅に数百円を擁して学校を建てた心持ちから考へますと，必ずしも女子中学校設立の夢は空想ではないと存じます。恰も満三年記念日に際しまして，一言本校の由来を申述べました。

清水安三識

(崇貞女学校創立満三年記念報告による。創立日は五月廿八日)

写真は右記念の折り来賓を迎へて撮影したものである。第三目段左方，清水安三氏，其後方侯女士，その隣が清水夫人である。去る四日出帆の大洋丸で清水氏夫妻は渡米されたが其の留守中も凡て内顧の憂ひなくやうせられてあるといふ事である。

清水安三「旅行免状を得るまで」(『基督教世界』第2131号，1924年10月16日) 7頁。

同僚同僚の為に言ふ「この方法で以て旅行免状を取るに限る」と。先づ斯う吹聴前おれして置けば読者の注目を引くこと受合である。

八月四日横浜を解纜す。平田老先生と千代子お嬢様 [、] 川端忠治郎君に見送らる。川端君は紫のタイプを投，私達は船上に君は橋上に立つて，紐の切るるまで共にはなさじと堅く握メ乍ら会釈しつつ、暫時の別離を悲しんだ、船の動き始むる頃、棧橋に立てる幾百の人々が、いみじくもみんな皆家郷に残し来たる老母と泰と星子に見えたる！。私達は人前も恥ざればこそわゝと声立てて泣きたる。泰と星子は私達の息娘であります。親の心に二つはないと見えワイフの奴もしか言つてよゝと泣くのであつた。彼是する裡に紫の紐はぶつつりと切れて私達は太洋に乗り出したのである [。] 豊葦原の瑞穂の国の国影の見ゆるまでは此処動かじとデツキに立てば、暮色あたりを埋むるの頃、水平線の彼方水天髣髴たるあたりに祖国の影を見失ふた。

私達の買った切符は「二等の乙」であつたけれども、船に入ると「特別三等」であつた。「二等の乙」の筈であると頑張つて見たがボーイは「二等の乙」も「特別三等」も同じですと言ふ。同じことがあるものか〔。〕 碁ならば確かに半目は違ふと言ひ張つたけれども笑つて取合はない〔。〕 無論こちらも取合つて貰へる心算で言つてるのでもない。二等乙と言ふと二等の室と略同じであるが食物が三等である。デツキが三等船客と一緒にいる。航海生活に取つてよきデツキは何よりも興味であるから特三に乗つたことは私達の重大失敗であつた。

「金の物言ふ世の中だね」

「だからわたしが二等に乗りませうと言つたに」

「まあ辛抱するさ。我党先輩にして古来三等に乗つて留学せし人々の数多きに……」

でも私達の部屋には六人分のベッドがあつたにも拘らず船客不足の爲めに、二人で一室を占領し得た。残る四つのベッドは押入箆の代用でありし。これも新移民法のお陰であるぞ嬉しき？ それでも、一寸したサルーンがある。今夜独り蓄音器を聞き乍ら本文をものする。

旅行免状を取る爲めに随分苦勞した。領事館はすなはち府県庁に相等するのである。私達は領事館に向つて成る可く親切なる取扱をして貰ふために、北京邦人有力者の多数を動かして最も迅速に旅行免状の手に入る様は尽力して貰つた。その爲めに北京副領事は外務省に向つて二枚半に亘る懇切なる推薦の書面を書いて下さつた。「清水夫妻は日支公共事業に尽瘁すること多年其傍支那語及支那事情研究に従事し、内外人に名望を得」〔。〕 穴あらば入り度き程に讀めちぎつてあつた、滑稽なのは居留民会の組長をやつたことだの在郷軍人会の副会長をやつたことまで書き並べてあつた。而もその上に「当館は同夫妻に渡航免状は附与して差支なきものと認む」とまで書いてあつた。東京外務省からは電報を以て返答して来た。

「米労働省長官の許可の無き限り留学生には渡航免状を附与すること絶対に難し」と言ふ様な意味の返電であつた。

其処で私達は兎も角も北京を去つて東京に上つた。東京には同志社の先輩なる伊達源一郎氏が東方通信社の社長をして居られる。東方通信は外務省情報部の機関である。已に表門より願出でて断られたのであるから裏門より頼むに及ばずと考へたのである。外務省には相等なる所に辱知の人々が少なくない、これ等の人達に色々研究して貰ふた結果が恚うである。

留学生として渡米するものは先づ独身者でなければならぬ。それは留学中に子供が生れるとその子供の市民権が生ずるからである。故に留学中結婚したものは婚姻と同時に帰還せねばならぬ。留学生は保証人を要する〔。〕 而も他人ではいけない、親戚にして十萬弗の財産がなければならぬ。之丈の条件の備はれる上に米国の学校の方でも日本人学生を入学せしむる許可を労働省から受けて置かなかつたならば上陸するを得ない。神学校その他にして未だ届出でて居らぬものが極めて多い。わけて毎年労働省に届出でて、報告せねばならぬので、その煩ひを避ける爲めに多くの学校は届出を敢て為さないで居る。特に小さい学校に於て然りである。

されば留学生として米大陸に上陸することは最も困難である〔。〕 然るに牧師として上陸することは極めて容易である。保証人も要せぬ。従つて親戚が皆んな素寒貧でも叶ひませぬ。女房を伴ふて行くも平気です。子供が出来たら市民権が生ずるそれも大目に見て呉れる。もう米国では牧師様々である。長い間蘇坊主の貧乏等といはれて輕侮されたる我等も、渡米の一段となるとエヘンである。低い鼻でも高くなるわ。

但し必ず二年以上伝道したる教会理事長の証明証と、それから八弗の入国金、十弗のビゼー印紙代とそれから船賃がいります [。] 尤も今少し時機が来るを待てば船賃も米国の方で出すと言ひ出さぬとも限らぬが今処それ程の親切はないらしい。されば牧師として渡米するに限る、而も私共は渡米後オベリン大学に行くと言つたけれども誰一人咎めものも無かつた。さてこの文は布哇に着する二日前マラリヤ熱にかゝつたものであるから、消毒の意味で古い原稿を破いて新らしく書き直した。そうして布哇で書き直したのであるが布哇移民局で何の文句もなく上陸出来たればこそ斯くも無事に通信ができるのである [。]（第一信）

（了）

【附記】 誤記等に気付かれた方々、あるいは本稿で紹介した史料の現物（複写物）を閲覧したい利用者諸賢は、編者まで連絡されたい（E-mail: kanemaru@ec.ritsume.ac.jp）。